

館 列 陳 品 商 濟 爾 哈  
ト ツ レ フ ン バ

道 鐵 支 東  
情 事 線 沿 部 西

月 二 十 年 四 和 昭  
號 六 十 二 百 一 第

0  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10<sup>8m</sup>  
1  
2  
3  
4  
5

始



### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします
- 二、本會は左の刊行物を發行します
  - (イ)露亞 時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
  - (ロ)パンフレット—同上記事を三十頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)
  - (ハ)週報—週内哈爾濱地方に起りたる出來事を簡報し讀者の質問に供するのであります(週刊謄寫版)
- 三、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります
- 四、會員は一ヶ月拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡斜紋街商品陳列館内

### 露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第二百二十六號

### 東支鐵道西部沿線事情(下)

北滿の富源は東支鐵道に依つて開發された、而して其西部沿線は最も重要視され、是が研究は必要且つ興味深い所である、曾て「滿洲里、海拉爾、東支鐵道沿線指南」を頒布したが、久しく絶版となつて居たので、八月南滿沿線事情を發行し、九月館員山内忠三郎をして西部沿線の實査に當らしめた、恰も露支風雲急を告げて居た際とて其詳況上に及ぼせる影響も窺はれる、即ち右報告書を上梓して讀者の參考に供する

昭和四年十二月廿八日

森 御 蔭



### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐亞、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査整理するを目的とし  
ます。
- 二、本會は左の刊行物を發行します。
- (イ) 露亞 時報 露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
- (ロ) パンフレット 同上記事を三十頁乃至百頁に一編めにしたる單行本であります(月刊二回)
- (ハ) 週報 露滿蒙地方に起る出來事を簡潔し讀者の疑問に供するのであり  
ます(週刊雜誌)
- 三、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります。
- 四、會員は一年預取金の會費を前納しまして前記刊行物を受領するのであります。

北滿洲哈爾濱商品陳列館街商品陳列館内

### 露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第百二十六號

### 東支鐵道西部沿線事情(下)

北滿の富源は東支鐵道に依つて開發された、而かも其西部線は最も重要視され、是が研究に必要且つ興味深い所である、曾て「滿洲里、海拉爾事情」「東支鐵道沿線指南」を頒布したが、久しく絶版となつて居たので、八月南部沿線事情を發刊し、九月館員山内忠三郎をして西部線の實査に當らしめた、恰も露支風雲急を告げて居た際とて其經濟上に及ぼせる影響も窺はれる、即ち右報告書を上梓して讀者の參考に供する。

昭和四年十二月廿八日

森 御 蔭



東支鐵道西部沿線事情(下)

目次

六、	大興安嶺	一
七、	博克圖(フヘド)	六
八、	札蘭屯(ジャラントン)	一三
九、	富拉爾吉(フーラルヂー)	一六
一〇、	昂々溪(ナンナンチイ)	一九
	位置	一九
	概観	二〇
	沿革	二〇
	商業	二一
	輸送統計	二四
	金融機關	二八

工	業	.....	二九
日本人の現状	.....	三〇	
將來	.....	三一	
一、齊昂經使鐵道	.....	三三	
一二、齊々哈爾(チチハル)	.....	三四	
位置	.....	三四	
沿革	.....	三五	
氣候	.....	三六	
人口	.....	三八	
市街の概観	.....	三八	
商業	.....	三九	
通貨	.....	四八	
金融機關	.....	四九	

工	業	.....	五三
農業	.....	五五	
倉庫	.....	五八	
取引所	.....	五八	
日本人の現況	.....	五九	
將來	.....	六二	
一三、小窩子(シヤラハウス)	.....	六二	
一四、安達站(アンタチヤン)	.....	六五	
位置	.....	六五	
沿革	.....	六五	
氣候	.....	六六	
市街の概観	.....	六七	
人口	.....	六八	

輸出品	六八
輸入品	八〇
輸送統計	七一
金融機關	七五
工業	七六
在留日本人	七七
將來	七九
滿溝	八〇
對青山(トイチンサン)	八八
廟台子(メイタイズ)	九一
西部線に於ける本年度農産物收穫豫想	九三
交通政策に就て	九九
蒙古貿易に就て	一〇三
在留日本人の現在と將來	一一一
結論	一一六



### 東支鐵道西部沿線事情 (下)

#### 六、大興安嶺

哈爾濱から八時間三五四キロの平々坦々たる平原を過ぎれば礪子山から次第に山々が車窓に迫つて来て、深山美人の稱ある白樺の林が雪よりも白い肌を表はして居ります。やがて山の裾を辿つて東支名所の一たる『ループ』、螺旋狀に圓を描いて廻る所)や二哩の大トンネルを経て、興安や宜立克等山の驛を過ぎれば今度は段々と山を降り牙克右邊から廣い一帯の牧場地帯に這入ります。即ち此の礪子山から牙克右まで三一二キロの間鐵路の兩側に大興安嶺林區が存在するのであります。

- 其の主なるものは次の通りであります。
- 3 東支鐵道(チヨール) 七〇〇平方露里
  - 5 札幌公司 四、〇〇〇

12	馬	九〇〇
13	メリホウ	二五〇
14	李徳才	三〇〇
15	馬	三〇〇
16	ウヲロンツオフ	二、〇〇〇

然し是等の林區も鐵道沿線に直接した地方は三十年前鐵道の建設さるゝ時既に伐り盡され、小さな樺や小樫が處々に叢を成して居るに過ぎず、遙かに三〇乃至四〇露里程林區深く入り込まねば鬱蒼たる大森林は見る事が出来ません。従つて製材費も年々昂騰して段々と活動力を減じられて行きます。

此の興安嶺の森林は長白山系と全然樹種を異にして、長白山系即ち東支鐵道東部沿線や吉林地方の森林は紅松蝦夷松を主として、鹽地、胡桃、櫟、白楊等が多いのですが、興安嶺の方は落葉松が森林の大部分を形成し、全体の七五%を占め、自樺一八%其他六%であります。落葉松は板又は建築材としては不適當であります。鐵道及炭坑に取りては貴重なるもので、水中や濕氣あ

る地中で保存期限の長い事を必要とする所には此の落葉松に代るものがありません。それで枕木とか、電柱とか、坑木等に使用されます。

此の特性ある爲め益々落葉松は重んぜられ、是れに對する需要も増加しつゝありますが、東部地方及吉林地方には落葉松が少く、大部分は此の興安嶺に求めなければなりませんので、一見有望の様ではありますが、事實は是れに反して、製材費の昂騰、或は支那側の干涉又は重税及東支鐵道の運賃高率、貨車配給の不圓滑其他の關係で、實績學らず、何れも休止同様で當事者の苦心も非常なものであります。

是等の林區の内最も活躍するものは札免公司以、札免公司是哈爾濱に總局を置き、公稱資本六百萬元、滿鐵、露商シエフチエンコ兄弟商會及中華民國黑龍江省實業廳の三者均等の出資で、以前露商シエフチエンコ兄弟商會一個が蒙古政廳より借區して居つたのを譲り受け、大正十一年六月創立同年十一月より開業したものであります。

其のコンセツション林區は大興安嶺の西部傾斜面に在り、林區内には興安、宜立克都、ホルゴ

一、烏諾爾及免海河の諸驛があり、林區總面積一一、〇〇〇平方露里、其内森林地帯、五、〇〇

○平方里であります。宜立克都驛より森林内に至る四十五露里の引込線を有し、林區事務所は宜立克都驛より二六露里の地點にります。

尙興安嶺中に在る各驛よりの林産品の發送數量は次の通りであります。(單低米突噸)

(木材)	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
牙克石	四、〇九一	六八六	—	—	二九九
兔渡河	—	一三六	一一一	九〇	一四二
ウヌール	三三三	一六	—	二九七	一、一五八
イレクテ	二〇、六三七	四、九三三	七、五二五	八、六四一	一〇、八八八
興安	二、八一九	三、四六四	七、九二二	六、六二四	六、七六五
博克圖	一一、三六一	二〇、〇三四	一六、一五五	二〇、八五四	二四、一三五
雅魯	一、五八三	四、一五四	五、一五九	二、〇七二	五六五
バリム	一、二五〇	一、〇四二	一、〇三一	二五二	五〇
ハラス	八六	一〇九	四九	一七	一三〇

(薪)	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
計	四一、八六〇	三四、五七三	三七、九五三	三八、八四七	四四、一三二
免渡河	一一	四四二	四五四	九九	一六五
宜立克都	—	—	六九八	五、二三六	六、五三四
興安	—	—	二六六	一、六六七	二、九二一
博克圖	五五七	六三九	五七三	九七四	三、四六六
雅魯	二九五	六七二	二、六〇八	四、〇七八	二、六八〇
バリム	一、〇三二	二一三	六五六	二、三四八	一、八四八
ハラス	一九二	六五六	三四四	九七三	一、四五二
札蘭屯	三六〇	一、七二一	九八六	一、四三四	一、七七五
成吉斯汗	八七六	二、二一〇	二、六一六	三、六二九	二、九〇二
鞭子山	一一五	四九	一三一	九八八	三四七
計	三、四三九	六、六〇二	九、三三二	二二、四二六	二四、〇九〇
(木炭)	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年



免渡河	1	1	25	47	94
興安	49	16	134	363	744
博克圖	402	329	343	595	292
雅魯	172	279	663	1,057	1,293
ハラス	1	49	327	870	890
札蘭屯	680	703	938	875	540
成吉思汗	369	246	204	336	262
計	1,672	1,622	2,634	4,143	4,215

### 七、博克圖(ブヘド)

博克圖は布哈圖とも書き、元と蒙古名で哈爾濱より五三九キロ、滿洲里より三九六キロメートル興安嶺中に在ります。

此の地の發達は、東支鐵道敷設以來の事で、是より興安のルートブ及トンネルに入るため汽罐車

を附けるので汽罐庫を設け大驛とした爲めで、従前は支那人の居住する者すら無き山間僻陬の溪谷地に過ぎなかつたのであります。

何分山の中に在りますので八月の末から九月の初には早や樹々は黄ばみ或は紅葉します。冬季の寒さは厳しいのですが夏は涼しい所であります。

	平均温度	最高温度	最低温度	合計降水量	最高降水量	十五年平均温度
一月	(1)21.9	(1)9.1	(1)31.5	8.0ミリ	2.0	(1)13.0
二月	(1)29.8	(1)6.3	(1)31.7	2.0	0.8	(1)18.9
三月	(1)20.7	4.7	(1)33.3	4.7	2.4	(1)11.2
四月	1.6	17.2	(1)25.4	11.6	5.6	0.4
五月	7.8	26.0	(1)5.8	4.7	1.4	9.3
六月	16.1	30.4	(1)2.4	30.9	16.7	15.1
七月	18.2	30.3	5.1	26.0	54.8	19.0
八月	17.1	27.9	2.4	23.6	25.5	16.3

九月	八、三	二二、四	(一) 五、七	七九、六	二一、九	八、七
十月	〇、八	一七、五	(一) 一八、七	八、六	七、五	〇、七
十一月	(一) 二二、五	六、〇	(一) 二四、七	四、六	二、六	(一) 一七、七
十二月	(一) 二〇、九	(一) 九、四	(一) 二九、八	一、七	一、二	(一) 一九、八
合計又は平均(一)	一、三	三〇、四	(一) 三一、七	四一五、〇	五四、八	

測候所やお寺の在る山上から見渡しますと其の裾を廻つて帯の様に西溝の町が續き、驛の北側上街が鐵道従業員の宿舍となり、南街が商業區で驛の南側に小やかな流れに沿ひ、山のその東の方には東溝が一塊りになつて居ります。此の西溝と、南街と、上街東溝の部で市街を形成するので其の範圍は随分廣いのであります。人口四、五〇〇内露人二、〇〇〇支人二、五〇〇位で機關庫も在り、西部線の主要驛であります。

北の方は山又山が重なり、此の峠を越ゆれば札免公司の山中の事務所に出られます。南にも山が連り此の谷間を汽車が東より興安嶺のトンネルを目掛けて走つて行きます。

當地方の土質は黒土で、地味良好、甘藍や白菜馬鈴薯等が栽培され、山の上の方まで耕やさ

れて居ります。玉葱は實地試験されましたが失敗に終り、濱田氏の試培したホツブも一時有望視されましたが、越年の手入れが大變なので一面坡に移り、其の残されたものを手入不完全のため全部枯らして仕舞ひました。

此の市街は工業は全然なく普通商店は東支従業員に日用品を販賣するに過ぎず、幸ひ興安嶺林地帯を控えて居ります關係上矢張り木材業を生命として居るのであります。札免公司と木石税局との間の山税問題から木材の受附を中止して居りますので、雨大續きであつたので、木材の出廻りも少く、金融も硬塞を來たし、かて、加へて東支鐵道系従業員を追放後補充が少く、結局員數が減少しましたのと購買力激減の爲め市況沈靜、全く商賣も無いとて商人連は大こぼしでした。主なる商店は次の通りであります。

木	材	札免公司	共信公司(大矢氏)(以上日本)
		永利林業採木公司	東北採木公司
雜	貨	信義茂	永發魁
		德順成	義發盛
			萬增祥

在留日本人は六月三十日現在齊々哈爾濱領事館調査で、戸數一〇、人口男一一、女二〇となつて居りますが、現在は全部で二十九名、内男は僅かに五名残りの大部分が支那人の内縁の妻であります。

博克圖は曾て露人のみでも其數四、〇〇〇に達し、商業も亦殷賑であつたのが、歐洲戰後市況頓に衰退を來し、昔日の繁榮を見る事が出来なくなりましたが將來に就ても沿線に近い山は全部伐採して仕舞ひ、大なる樹林に至るには鐵道を距る數十支里の奥に這入らねばならぬ様になりましたので、此の儘では最早や木材業としては三年位の壽命ではあるまいかと云はれて居ります。東北公司も最近引込線を増設して仕事を開始しやうと労働者の募集に従事して居りますが、將來は木材産出地としての地方色を失つて、たゞ單に機關庫のある關係上鐵道従事員の爲めに日用必需品を小賣する位で經濟上の價值なき一小市街となつて仕舞ふのでありませう。

當時局に際し此の地の駐兵は三千と稱せられて居りました。當驛の發着貨物は次の通りであります。

發 送		年 度	
自鐵道へ	八、七七七噸	一九二四	一九二五
滿鐵へ	四、二二二	一九二四	一九二五
計	一二、九九九	一九二四	一九二五
内主なる貨物			
木材	一一、三六一	二〇、〇三四	一九二六
薪	五五七	六三九	一九二七
穀類	一九八	一〇三	一九二七
木炭	四〇二	三二九	一九二七
野菜	二七九	一八五	一九二七
家畜	四頭	七頭	一九二七
到着			
		四二頭	五二頭
			五六頭

自營道より	二、九五七噸	二、九〇二噸	三、一九七噸	五、一六七噸	六、三三五噸
ウスリー鐵道より	六九	一七四	八六五	五〇	五二
滿鐵より	一	三	一	三	四
計	三、〇二七	三、〇七九	四、〇六三	五、二二〇	六、三九一
内主なる貨物					
穀類	二、二二六	二、二〇二	二、三二〇	三、六一二	四、一七五
乾草	九六	一一一	二三四	五八二	一、〇五八
酒類	六一	七四	七四	一五〇	一三九
野菜	六一	三八	三八	六六	九五
砂糖	五四	五三	五七	一〇八	八四
鹽	六六	四三	三七	五四	五四
煙草	三六	三〇	三〇	四九	四五
家畜	四五二頭	一七三頭	二八二頭	四四八頭	一一八七頭

### 八、札蘭屯、(ジヤラントン)

札蘭屯は哈爾濱より四一六キロ、滿洲里より五一九キロの地點に在り、雅魯縣廳の所在地ではありますが避暑地としての方が有名で、河底の石や砂が一つく見える、青々とした情冽な雅魯河が黄葉した樹々を縫ふて流れる景色の美しくさ、大きな樹木に覆はれた静かなすがくした夏も暑さを知らぬ町であります。流石別莊建の奇麗な家屋が澤山あります。

人口三、五〇〇と稱します。

支那町は特別區の東に隣接して小やかな商業區を形造つて居りますが、背後地も無く工業も無いので微々たるものであります。主なる商店は次の通りであります。

義合永、福興昌、慶和永、金融祥

土産品としては薪、木炭野菜位のものであります、ハルビン等の露店で支那人がよく賣つて居る榛の實も附近の山から出ます。即ち當驛の發着貨物の主なるものは次の通りであります。

發送

薪	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
木炭	三六〇噸	一、七二一噸	九八六噸	一、四三四噸	一、七七五噸
野菜	六八〇	七〇三	九三八	八七五	五四〇
穀類	一六三	一三〇	一九八	二九四	四〇三
木炭	四四	一二六	一〇七	九四	八四
家畜	八五	一六	三七	四三九	四九
到着	一三頭	六六頭	八七頭	四頭	三五頭
穀類	三九二噸	四七七噸	四〇八噸	八五一噸	一、三六三噸
木材	—	一六	二三	一三五	一〇〇
乾草	一二	二五	二〇七	四七六	六二九
酒類	一八	一四	一九	三四	二六
砂糖	二六	二二	二六	四二	三一

鹽	二二	二〇	二四	五一	五〇
家畜	五六頭	四二頭	一〇頭	一〇四頭	一五五頭

市街の西南に水浴場や遊園等の設備があり、美しい白色の釣り橋もかゝつて居て、西部線第一の名所となつて居りますが、本年は露支紛争事件で避暑客は蒼惶として引揚げ、又今年の出水で橋の一部は押し流され、家は例れて無慘にもひどく荒らされて仕舞つて居りました。

鐵道線路の北側の山の上には望樓があり、美しい附近の景色を心ゆくまで眺望する事が出来、例年の夏なら此の山などは電燈もつき散歩客で賑ふのだそうですが、今は淋しく野菊や、りんどうの様な花が咲き亂れ、二人の支那の歩哨が立つて居たのみであります。

別荘風の大きな奇麗な家も皆支那軍隊の宿舎に充てられ、兵營もあり駐兵約一、〇〇〇と云はれ、時々示威行軍をやつて居ります。

在留日本人としては出来合服を賣つて居る藤田氏夫妻のみで、朝鮮人は、少し離れた所に水田などを經營して居るとか聞きました。稻の品質もかなりの物だとの事ですが此處では日照時數や熱度、無霜期間が不足である筈でありますから成績は如何かと思はれます。

### 九、富拉爾吉(フールルチー)

富拉爾吉は昂々溪の西方二四支里、齊々哈爾の南西約六〇支里、嫩江の右岸に位し、東支鐵道の一驛なると共に嫩江の埠頭として發達した所であります。

人口約三、〇〇〇、夏季は嫩江の戎克に依り、冬季は馬車に依つて小麥、燕麥、大豆、玉蜀黍等の穀類が集まつて來ます。殊に燕麥の集散地として知られ、市況亦頗る殷賑であります。

原料出廻りの關係から工業も比較的發達して居ります。

廣記油房 製油 水壓三〇台 一日製産能力豆粕二二五〇枚、豆油三九〇布度

廣記火磨 製粉 資本金五〇萬元 一日製産能力五〇〇布度

徐鵬志釀酒工場 酒精及ウオツカ 一日製産能力四〇〇ウエドロ(年産七〇〇石)

當地には日本人の在留するもの無く、特産商等が積込の爲め出張する場合は支那宿に泊まるか昂々溪から往復して居ります。

交通の便利な所ですから、將來としても發展の餘地あるものと思はれます。又東支鐵道は當地

に社員療養所を設定し夏季水浴地としても相當の設備をして居りますので避暑地としても知られて居ります。

富拉爾基驛の發着貨物は次の通りであります。

發送貨物

	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
自鐵道内へ	八、九三二噸	五、五七四噸	六、九三六噸	一四、〇九二噸	一八、七二七噸
ウスリー鐵道へ	八、〇九三	一三、五五〇	二二、二四四	三八、四五五	二二、七七一
構鐵へ	六九二	一、五五〇	四、五〇〇	二、二九九	二二二
計	一七、七二七	二〇、六七四	三四、六八〇	五四、八四六	四二、七二〇
内主なる貨物					
穀類	一五、六四九	二〇、〇八八	三三、八四四	五〇、七〇六	四一、八六五
酒類	五〇四	二二一	一一八	一三六	一四五
野菜	八一	二七	二七	九〇	六六

木	村	一、二三四	二四四	五〇	三四	二五
家	畜	二二八頭	七五頭	四二六頭	一、八九二頭	一、六八五頭

封着貨物

自鐵道内より	三、四七二噸	三、六一三噸	四、六五六噸	七、四六〇噸	一三、一九八噸
ウスリー鐵道より	三二	一	二二	一五	一一九
滿鐵より	三九	一五八	二二四	一五九	三七
計	三、五四三	三、八七一	四、九〇一	七、六三四	一三、三五四

内主なる貨物

穀類	四七	二二七	一一四	七九九	一、〇四八
薪	三四四	一、六六七	一、七八一	一、三〇八	一、八一三
木材	一七	二二八	三八〇	九六九	二、六〇九
麻袋	一五一	二五一	三七〇	六〇二	六〇二
織物	二七	八〇	八一	一三〇	一四〇

陶器	一	二九	一七六	五二〇	七三〇
鹽	三	四一	六五	一〇一	三〇四
石炭	二、六三七	七六四	一、〇二六	一、六六五	一、〇七六
家畜	六八頭	八二頭	一七頭	八一頭	一一六頭

因に日露の役に横川省三、沖禎介等六名が身を挺して敵地深く潜入して此の地の鐵橋を破壊せんとして果さず、横川沖の兩氏は露兵の爲めに捕へられて哈爾濱の露と消え他の四氏は一時敵手を逃れましたが何れも蒙古人の爲めに非業の最後を遂げた思ひ出の土地であります。

### 一〇、昂々溪(ナンナンチイ)

#### 位置

昂々溪は東支鐵道西部線で齊々哈爾驛と稱しますが齊々哈爾省城とは異なります、哈爾濱より二七〇キロ約七時間で達します。黑龍江省城の齊々哈爾とは二五キロの輕便鐵道を以て連絡し、

支線に依り北は齊克鐵道に、南は洮昂鐵道に連絡し、又洮昂線の昂々溪驛(模古氣)から約五哩の間自動車便があります。

### 概 観

昂々溪市街の總面積は約九百六十八万坪で人口は約一八、〇〇〇内支那人一六、〇〇〇人、露人一、六〇〇人に達します。

線路の北側は主として鐵道關係の用地で、停車場、東支俱樂部、教會、鐵道從事員宿舍等あり南側は商業區域で、地方の開発に連れ、年々膨張して行きます。そして新らしい糧棧等が澤山に出来、潑刺たる延びんとする力が溢れて居る様に感ぜられます。

尤も東支俱樂部は全線主要な驛に設置され、旅人の宿泊も出来る様になつて居る所も多かつたのですが、本春以來、赤系露人等の集會の恐れある爲め全部の閉鎖を命じ、兵站となつて居るのが多い様でありました。

### 沿 革

昂々溪の發達は極めて最近の事で、一八九六年迄は砂茫たる一帯の砂原で、僅かに現今の支那町の西北方にあつた三十餘戸の小農村を介して蒙古貿易の小驛站たるの價値を有したに過ぎなかつたのですが、一八九六年露國が時の清國政府に出款して東清鐵道敷設條約を締結し、停車場を設くるに及んで、支那人の移住する者も漸次増加し、我が西伯利出兵の際は兵站倉庫を此地に設けた事がありますが、爾來面目一新され、市況頓に活氣を呈し、大正十五年洮昂鐵道の益々重要な地點となつたのであります。

一九二〇年露國政權の失墜に乘じ支那側は東支鐵道沿線附屬地の警察權及司法權を回收しましたが、更に翌年二月五日大總統令を以て市政管理局を制定して附屬地の行政權をも獲得し、次で沿線各鐵道附屬地に市政分局を設置し、當地にも哈爾濱市政局の分局のを設くるに至りました。即ち建築、道路、橋梁、衛生、消防を管理し、たゞ市政分局は司法權がありませんので當地の司法權は黑龍江省司法當局に屬して居ります。

### 商 業



當地の商業は主として特産取引であります。齊々哈爾背後地の雜穀取引は昂々溪を中心として行はれ最近取引所も設立され盛況を呈して居ります。特産商の主なるものは次の通りであります。

商 號	店 主	資 本 額	一箇年取引高
增 盛 公	劉 子 華	一〇〇,〇〇〇元	一,五〇〇,〇〇〇元
維 新 店	楊 景 常	五〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
趙 家 店	趙 玉 鄉	四〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
裕 太 店	馬 喜 芝	五〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇
永 隆 裕	張 子 青	一〇,〇〇〇	五七,〇〇〇
廣 信 隆	趙 云 章	五〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
豐 盛 和	張 季 峯	二〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇
廣 順 棧	賀 文 祥	三〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
源 茂 泰	高 子 元	七〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇

又輸入品は石炭、綿糸布、麻袋等が最も多く、主として哈爾濱に於て仕入れ昂々溪及其の近傍の各縣、並に克山、拜泉縣地方にも移出さるゝ外、齊々哈爾及黑河等への通過貨物も相當にあります。

主なる雜貨商は次の通りであります。

商 號	店 主	資 本 金
福 來 德		五〇,〇〇〇
廣 俱 泰	徐 星 仁	〇,〇〇〇
豐 盟 和	張 季 峰	二〇〇,〇〇〇元
德 興 茂		不 詳
義 和 源		一〇〇,〇〇〇
天 盛 濱	李 玉 清	三〇,〇〇〇
育 升 慶	李 仁 普	一五,〇〇〇
義 聚 永	唐 姓	二五,〇〇〇

此他中小雜貨商を合し賣上高冬季一ヶ月約二十万元に達し、夏季閑散期と雖も十万元に及ぶとの事であります。

輸送統計

東支鐵道の普通貨物輸送統計は次の通りであります。

發送	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
自鐵道内へ	一八、五四五噸	一四、六七四噸	二三、四二五噸	三四、五七〇噸	五七、四〇〇噸
ウスリー鐵道へ	四七、八九八	六〇、三二五	三二、八五四	九八、六七七	八〇、三二九
滿鐵へ	一、七六八	四、八一四	三、六〇七	一、〇二七	五四六
計	六八、二一一	七九、八一三	六九、八八六	一三四、二七四	一三八、二七五
内主なる貨物					
穀類	六三、六八四	七七、二五五	六四、九七五	一二九、四一〇	一三二、五二七
野菜	九四二	六一一	二八三	六五六	一四三

乾草	一、〇五六	一	九八〇	一	一
魚類	三四六	六四	二二	一五五	四八
肉類及腸其他	四八三	五三〇	五〇六	四〇九	二九九
燐寸	一八四	一三四	一五八	九一	五九
羊毛	五一	九〇	七三	一一二	一五九
豆油	一六二	一二八	三三四	七七四	二〇二
鹽	四一	六四	一六九	二〇四	四二六
麻袋	四一	八四	一七三	三七五	三二八
木材	三四五	一二八	二一五	一八〇	一二四
食料品	七四	五四	五一	三七〇	一五三
家畜	五、五九一頭	五、三六三頭	四、八三〇頭	一〇、五二七頭	八、九四九頭
到着					
自鐵道より	一六、四一六噸	二八、五三三噸	四〇、四六六噸	六七、六四四噸	八一、七一四噸
ウスリー鐵道より	五二三	六五四	二二三	六五六	一、二六〇

滿鐵より	六、五三二	七、四七四	八、〇一一	八、九四七	八、九六一
計	二二、四六一	三六、六六一	四八、六九〇	七七、二四七	九一、九三五
内主なる貨物					
鹽	三、七五八	三、八二六	四、〇九六	五、〇〇四	五、二〇九
石炭	七、二一〇	一一、九六四	一九、一一〇	二六、七六二	三〇、二二三
織物類	一、〇九九	一、四一六	一、四二三	一、四三八	一、九五三
麻袋	九五一	一、二一〇	一、〇七九	一、七〇五	七、七〇三
木材	五一九	二、六七一	二、〇五八	五、三〇二	八、五八三
セメント類	七五一	一、二二五	八六四	一、七五二	二、九一五
煙草	四三二	五三一	四六六	七三五	七三〇
砂糖	五九五	四七五	五〇八	九二七	一、一七九
石油	一、一三二	一、一〇七	一、二五二	一、六七四	二、四八五
ベンゼン	—	八六	二六六	五七九	一、〇七六

紙	五三二	二四九	四三八	六〇三	七五〇
綿花	一九九	二六八	二七七	二八一	三八五
果實	七四八	八八八	一、〇九四	一、〇二六	一、八九五
穀類	一、〇一一	二、八〇八	六、三二九	四、七五六	六、六一二
魚類	三八一	二五八	三一九	四九一	六〇四
鐵製品	三二二	四二〇	五七三	八四四	九六八
食料品	二八一	三七九	四七〇	八七七	一、一二七
鐵	一九六	二七六	四〇五	七五八	九九四
蠟燭	八四	八五	九七	一九一	一八三
硝子及同製品	二三四	一八八	一〇〇	二五六	三二七
野菜	一一七	八三	二三四	一六六	二四二

石材及鑄石	一〇五	一八一	三二四	一、ノ六五	八九二
陶器	九八	二二四	二二六	六六六	八二六
曹達	一六	三七二	四七〇	一九六	二三九
能其他	二九〇	四一八	五三〇	六五〇	四八一
薪	一、〇〇〇	二、八七二	二、四四八	一二、六九一	一三、八二三
家畜	一、〇七三頭	六一五頭	三三一頭	七一四頭	一、〇九五頭

金融機關

曾て西伯利亞出兵の際朝鮮銀行が出張所を開設した事があり、一般特産商にも金融しましたので多大の便宜を得ましたが、現在では全然銀行業無く、小規模の數軒の錢舖があるに過ぎません従て特産取引にも甚だ不便ですから昂昂溪で穀類現物の受渡を爲し、哈爾濱又は齊齊哈爾で代金を決済して居ります。

當地錢舖は齊々哈爾總商會錢市の定むる一日一回の相場で兌換し、又は哈爾濱取引所の相場に依て大洋又は奉天票の投機を爲し、其他冬季特産の取扱や小額の爲替取組を取扱ふに過ぎぬ小規模のものであります。従て銀行の様に貸出を爲さざるのみならず、金額の多い時は爲替取組すら出来ないで、一般商家は齊々哈爾で金融又は爲替取組を爲す場合が多いのであります。

工業

當地に於ける主なる工業は製粉及製油で、殊に製粉の發達著しく、齊々哈爾背後地各縣及東支鐵道沿線に販路を有し、將來尙發展の餘地があります。

工場名	種別	設立	一日小麦挽碎能力	同製粉能力	同麵製産能力
振昌火磨	製粉	一九二二年	二〇〇〇布度	一四〇〇布度	五〇〇布度
(本店、哈爾濱、資本五〇萬元、一ヶ年製産高八〇萬布度)					
工場名	種別	設立	機械種類	台數	一日豆粕製造能力
同豆油製造能力	同豆油製造能力	同豆油製造能力	同豆油製造能力	同豆油製造能力	同豆油製造能力
義增永	製油	民國一二年	螺旋	一六台	四〇〇枚
德增東櫃	同	一〇	同	三四	八五〇
					一五〇

德増四櫃	同	一四	同	三四	八五〇	一五〇
巨源永	同	一一	同	一二	三〇〇	五〇
義豐祥	同	一五	同	八二	二、〇五〇	三六〇
源祥東	同	一六	同	三六	九〇〇	一六〇
度信和	同	一六	同	三四	八五〇	一五〇
永豐源	同	一六	同	一六	四〇〇	七〇

日本人の現状

本年六月三〇日現在齊々哈爾濱領事館調査に依る在留日本人は次の通りであります。

内地人	男	二二三	女	一七	計	四〇
朝鮮人	男	三五	女	三七	計	七二
計		五八		五四		一一二

是を職業別に見ますと次の通りで國際運輸の外甚だ振ひません。

物品販賣業	一	醫師	一
實商	二	寫眞師	二
會社商店員	九	無職	五
旅宿	一		
理髮	一		
藥房	三		

當地には國際運輸株式會社の出張所があり、大いに活動して居りますが、一般日本特産商は昂々溪に店舗を置かず、特産出廻期に哈爾濱より隨時出張して現物の取引をなし、又は貨車積込を監督するに過ぎません。

日本人の旅宿としては昂榮館が齊々哈爾朝日館の支店として便宜を計つて居ります。

將來

昂々溪特産物の取引に依つて維持せられるものでありますから、將來の發達如何は全く同地特

産事情の如何に依るのであります。

既に齊々哈爾に先んじて雜穀の取引所も設立され、又克山に達する齊克鐵道も一部起上され、明年度に於ては全部の開通を見るべく、是れに依つて北海の穀倉とも稱さるゝ克山、拜泉地方の特産約十〇萬噸の過半数は昂々溪に吸収し得るものと云はれて居ります。

昂々溪には金融機關が無い爲めに總て齊々哈爾に於て金融を計る不便がありますが、將來此地が齊々哈爾を凌ぎ此の地方の特産の中心となるならば最も必要な金融機關が開設さるべき事は明かであります。

又齊克鐵道と東支鐵道とゲージが同一で無い爲め、昂々溪に於て雜穀積卸の手續を要しますが是とて大した問題にはなるまいと考へられます。東支鐵道としても培養線とすべく、齊克、洮昂兩路特産を東支線に輸送せしめて、東支鐵道は是に對して相應の割戻を與ふる協定が成立したとかの噂もあり、一方支那側としても利權回收を目標として排外的行爲の準備に、齊克、洮昂、四洮、打通、京奉の聯絡も計畫され、他方滿鐵としても之に對抗して齊克、洮昂、四洮、南滿の連絡を計り或は混合保管を施行する事となりませう。そして昂々溪を中心として激烈なる貨物の争

奪戦が開始さるゝ事となり、自然的に昂々溪の發達を促すものと云はねばなりません。

如斯四通八達の要路に位する昂々溪は將來益々發達すべき情勢に在り、吾人はむしろ齊々哈爾よりも昂々溪の將來に矚目します。

## 一一、齊昂輕便鐵道

齊昂輕便鐵道は、齊々哈爾、昂々溪間二五軒を二時間で連絡する輕鐵で、滿洲旗人救濟を目的として光緒三十三年設立せられたものであります。黑龍江政府が江省内旗人の所有地を旗人に代つて賣却し、其の代金の一部を建設資金に充富し株券として旗人に分與し、資本金三二萬兩を以て牛官牛民組織とし、時の黑龍江省著理將軍程德全の計畫に依つて獨商泰來洋行請負の下に創業宣統元年竣工したものであります。

然るに本鐵道は輸送能力貧弱なると、東文本線との連絡の不便は旅客及貨物輸送上價值甚だ少きものとなり、經營も宜敷を得ず、業績不振を續けて居ります。

最近起上せられた齊克鐵道は本鐵道の競争線とも見るべく、本鐵道富事者も非常に狼狽し、只

管乗客の吸収に力め、自動車をも以て乗客を無賃で停車場まで送つたり、又墨爾根迄線路延長の計畫もあるそうであります。

外に自動車が一人哈大洋一元五〇仙乃至二元、四人乗賃切で七元位で晝間何時でも自由に齊昂間を運轉し、冬季間は黒河までも運行しますので、本鐵道は特に影響を蒙つて居ります。

## 一二、齊々哈爾(チチハル)

### 位置

齊々哈爾は北緯四七度二二分、東經一二三度五分に位置し、東支鐵道昂々溪驛から北方四五支里、(一八哩)哈爾濱を距る西北七〇〇支里、嫩江の左岸東岸に沿ひ。布西、墨爾根に戎克が通じ下流伯都納へ五四五支里、陸路墨爾根(四八〇支里)を経て大黒河(九三〇支里)に、一方興安嶺を越えて海拉爾(一、二〇〇支里)に達します。秦來へ一二四キロ洮南へは二五八キロであります。黒江省城の所在地で行政の中心地であります。

### 沿革

齊々哈爾は別名を卜魁(フウクイ)と稱し又ト奎とも書きます。

往昔の齊々哈爾は蒙古の一寒村に過ぎず、現城の西方嫩江の右岸二〇支里の地點に在つたので、交通不便且水害の憂ひがあるといふので、康熙二十二年都統彭春が露西亞を征した際、現城ト奎に移駐し、邊防の要地として墨爾根と共に此の地に築城し、依然齊々哈爾の名を襲ひ、同三三年黒龍江火器營を置き、三十八年將軍府を墨爾根より移し、鎮守使として始めて黒龍江省の首府となり、爾來奉天及吉林と併稱され東三省に於ける三大政治中樞要地で、繁榮の今日に至つたのであります。

又光緒三十一年原設査街所を改めて黒水廳を新設し、同知を置き、同年十二月副都統を廢し、同三十三年更に將軍を廢して巡撫を設置しました。翌三十四年黒水廳を昇して龍江府に改め翌宣統元年より實施、其後革命の亂と共に都統府を設け、民國二年三月龍江府を改めて縣となし、したが是れが現今の龍江縣であります。

氣候

矢張り大陸的で寒暑ともに激しく、冬季の最低気温は攝氏零下三十六七度に降り、夏季は最高四十度にも昇る事があります。

九月下旬には初霜を見、四月下旬に終わります。即ち平均一三〇日内外の無霜期間となります。九月下旬には降雪あり、薄氷が張り十月下旬から十一月月上旬にかけて結氷期に入り、四月上旬に至り解氷し、五月上旬頃まで雪が降ります。

降水量は六七八月の候最も多く、年總數量四〇〇ミリの七〇%以上は此の三ヶ月に降ります。

風は西北風最も多く、風速亦大で、三、四、五の三ヶ月は暴風多く砂塵を捲き上げ、天日爲めに暗くなる事が多い。春秋二季は何れも一ヶ月位で春は殆んど土塵黄砂の日で終わりますが、秋は比較的快晴の日も多いのですが、東の間に暮れて直ぐに寒さの厳しい冬となります。

満鐵公所の観測に依る氣象は次の通りであります。

午前十時気温 日照時數(ミリ)百分率降水量 蒸發量 湿度%百分率 最大(秒)風速

一月	(一)二二、九	六四	三、八	一六、七	六二	一〇、五
二月	(一)一五、二	七八	〇、四	二八、一	五八	一四、二
三月	(一)四、八	七四	七、四	九〇、九	四四	一六、四
四月	七、一	六九	二七、八	一八九、九	四〇	二〇、七
五月	一三、四	五三	二二、〇	二八〇、七	四〇	一八、三
六月	二〇、六	五二	七二、六	二七七、六	四九	一一、九
七月	二三、八	四九	一五〇、三	二五二、九	六二	一三、八
八月	二二、五	四三	九七、六	一五三、八	七三	一〇、四
九月	一四、一	五八	五一、〇	一一三、〇	六三	一六、九
十月	五、二	五八	五、五	一〇二、三	五四	一七、九
十一月	(一)八、八	五九	一、〇	四一、九	六六	一四、一
十二月	(一)一八、九	七一	一、〇	二二、二	六七	一〇、五
平均	三、一	五九	四四〇、四	一五六九、〇	五七	一四、六



人口

支那公安局の調査に依りますと次の通りであります。

戸数	人	口
支那人	一一、三二〇	男四〇、三二一人 女二一、三二〇人 計六一、六三一人
日本人	四四	六五 七〇 一三五
朝鮮人	四七	八〇 七四 一五四
計	一一、三二一	四〇、四五六 二一、四六四 六一、九二〇

然し實際は右の調査よりも多く、約八〇、〇〇〇人位であらうと云はれて居ります。

市街の概観

齊々哈爾市街は平坦なる曠原に建設され、南北約三〇町、東西約一八町、内外の二城に分れ、外城は不規則に造られた普通の土城で、内城は黒煉瓦を以て築かれ、高さ丈餘、幅七、八尺周圍

二四町の方城で東西南北の四門が設けられ、俗に破城と稱します。内城は官公衙の所在地で、南門外は南門大街と稱し、市中商業の中心で、大小の商賈櫛比し、其の繁盛振りは流石齊々哈爾であると思はしめます。其の西南に財神廟街が在り、南門大街に次ぐ殷盛を示し、日本在留民の大部分は此處に居住します。

財神廟街の西北に龍沙公園があり、此の公園の西南一帯の地域が外國人の居留地として豫定せられた所謂商埠地であります。外人の居を構ふる者無く、日本領事館や滿鐵公所、支那の交渉署及輕便鐵道の驛等が在るに過ぎません。

市街及附近一帯は砂層である爲め、車馬往來する毎に砂塵蒙々と立て込め、風の日は黄塵万丈咫尺を辨ぜぬ状態であります。たゞ南門大街のみは最近鐵筋コンクリート道路とすべく盛んに工事中でありましたが、竣工の暁は北滿には珍らしい立派な道路となりませう。

流石は督軍のお膝元なので、市街や建物は純支那式であります。

又最近は地方との交通に自動車が発展して來ましたので自動車屋の多い事も目立ちます。

商業

齊々哈爾は明治三十八年開放された商埠地でありませんが、單に政治及軍事的の必要と諸施設の膨脹を來たしたので繁盛となつた都城で、商業都市の要素を具體して居るが爲めではありません。物産としても僅かに曹達、薪、魚類、西瓜、貝珠、嫩江石がある位で、且つ不便極まる昂齊鐵道に依つて東支鐵道と連絡するに過ぎなかつたので、商業都市としての發達は非常に遅れて居ります。

即ち經濟上から見ると殆んど孤立的狀態で、背後地として擧ぐる程の地方も無く、墨爾根は既に昔日の感なく、黒河や腰琿はあつても露支經濟斷交以來市況頓に衰退し、而かも其の需要品は夏季、水路に依つて哈爾濱より供給されて齊々哈爾は冬季間僅少の補充の通過地に過ぎないのであります。

従て齊々哈爾には大商人も無く、奥地商人は總て哈爾濱又は營口に至り仕入れする者が多かつたのでありますが、數年前より移民の増加に依り、奥地の需要も漸次遞増し最近に至つて齊々哈爾より直接取引する者が増えて參りました。殊に昭和三年七月から黒龍江省では落地税と稱して通過税を徵收する事となりましたので、哈爾濱にて仕入るるも齊々哈爾にて仕入るゝも結局大差

無い事となりましたので奥地商人は齊々哈爾で仕入れるものが増加し、市況も頓に活況を呈して來ましたが、尙且つ他所との取引額の二分の一に過ぎない狀態であります。

昭和三年度の取引高見込は次の通りであります。

綿	布	金	一、五〇〇、〇〇〇圓
砂	糖	金	五〇〇、〇〇〇圓
雜	貨	金	一、〇〇〇、〇〇〇圓
計		金	三、〇〇〇、〇〇〇圓

右の内参考迄に綿布の昭和二年五月より昭和三年四月までの一年間齊々哈爾輸入に就て調査された銘柄別ものを掲げますと次の通りであります。

粗布	遼	塔	一、一四六
文	珠		二一五
水	月		四五五

(單位綑)

晒細布	大尺布	細布							
童公會堂	人抱魚	三象冠	月人	軍	7同	16老人	13老人	金	三元
三九	一七九	一一四	三三七	二四八	一一七	二四六	四七〇	一五	一三三
	小計	七〇〇		小計	八三三		小計	二五三三	三二二
									三四
									二二三
									二二三
									三四
									三二二

猪	籠團	籠團	老頭	籠頭	龍頭	鳳頭	雙魚	人面	雙童	三星
三五	三五五	三〇	二二五	一一八	三二四	八九	三〇一	一二五	二二二	二二二
		小計	三四〇		小計	五二一		小計	六三八	總計五、五六五

右の外陸軍被服廠用として一年犬馬粗布三〇〇一四〇〇、太綾ラグビー八〇〇一、〇〇〇俵あり、加工細布は右の二分ノ一乃至三分ノ二位であらうと云はれて居ります。  
尚昨年は奥地の收穫物の成績が良好であつたので、購買力も増加し不昧市中を潤し土地の開發

と共に益々好望の傾向にあります。本年に入りては氣候の不順や、各地の出水の爲め交通杜絶し、馬賊等の騷擾も甚しく、何れも相當の影響を受け取引高は前年の三分の一に達し得ない模様であります。

又當地は奥地方面よりの特産物の出廻りも多く、一中心市場で商務總會に於て哈大洋三〇萬元の資本を以つて信託會社(取引所)も設立すべく計畫中で近く開市の豫定であります。今日までの廣信公司の無謀なる買占に禍せられて特産商は何れも屏息の状態で、特産物出廻高に比し市況は活氣に乏しいのであります。

主なる商店は次の通りで昭和二年總商會當記商店数は一等五四、二等七二、三等一二九計二五五であります。

店名	取扱商品	資本金	一ヶ年賣上高
公和厚	布疋 雜貨 紙 綢緞	二〇,〇〇〇元	二〇萬二五萬
同 德 泰	同 同 煙草 麵粉	五,〇〇〇	
德 增 長	同 同 同	二〇,〇〇〇	三〇萬

天 合 潤	綢緞 布疋 雜貨	一〇,〇〇〇	
章 記 貨 店	洋貨 磁器	八〇,〇〇〇	
永 隆 裕	軍衣 呢絨 布疋 呢絨	五〇,〇〇〇	
裕 豐 瑞	布疋 雜貨	一五,〇〇〇	
恒 昌 隆	同 同	一五,〇〇〇	
天 和 鴻	布疋 呢絨(洋雜貨)磁器		
大 來 公	布疋 呢絨 雜貨 紙	二〇,〇〇〇	
興 隆 魁	呢絨 布疋 雜貨	二〇,〇〇〇	
同 盛 和	同 同 紙 煙草 茶	一〇,〇〇〇	
大 同 盛	呢絨 布疋		
德 增 久	同 同 雜貨 麵粉 紙	二〇,〇〇〇	

東昌盛	瑞興號	瑞慶和	義生公	瑞合興	天義東	天吉昌	公義興	天增魁	鼎恒升	義增德
綢緞 布疋	同 同	同 同	布疋 雜貨	同 同 紙	同 同 同	布疋 雜貨	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同
110,000	110,000	110,000	5,000	3,000			6,000			

和發祥	瑞林祥	玉合順	復祥林	廣盛和	義和公	寶增茂	德長茂	華豐魁	益豐源	恒源利
布疋 綢緞	綢緞 布疋 雜貨 紙 煙草	同 同 同	同 同	布疋 磁器 雜貨 農具	綢緞 布疋 雜貨 煙草	同 同 煙草 磁器 農具	布疋 雜貨	同 同	綢緞 布疋 煙草 雜貨	同 同 同
	30-40萬	10,000			20,000	10,000	10,000		10,000	11,000

天寶堂	雜貨 布疋 (質商)	五〇、〇〇〇
正興玉	同 同 紙	
永隆元	洋雜貨 磁器	一〇、〇〇〇
和興東	同 同	
寶山永	布疋 綢緞 洋雜貨 煙草	二〇、〇〇〇
興隆魁洪記	綢緞 布疋 雜貨 紙 煙草	

**通貨**

黑龍江省に於ける通貨は種類が多いのと間斷なく相場が變動しますので統一がなく取引に甚だ不便があります。

- 1、官帖。 廣信公司發行に係る一覽拂手形であつて一般取引に使用せられ、發行當時は官帖三吊文を以て大洋一元に兌換せられました。漸次下落して現在は大洋一元に二七〇

吊前後に相當します。習慣的信用の爲め齊々哈爾は勿論、黑龍江省内各地方に使用せられます。

- 2、哈大洋 廣信公司發行に係るもの以外に東三省、中國、交通、邊業各銀行發行の哈爾濱大洋票が流通して居りますが、亂發等の結果、漸次下落、目下大洋一〇〇元が金五五圓一六〇圓位であります。殊に廣信公司發行の分は一般には他行發行の分と同様に流通しますが、東支鐵道では之を受け附けません。
- 3、四分利公債 矢張り廣信公司の發行するもので、一元、五元、一〇元の三種あります。一元は官帖一二〇吊と交換せられます。

**金融機關**

齊々哈爾は黑龍江省の政治經濟の中心地である爲め、金融機關も多數にありますが、何れも最近は消極方針で成績も思はしからず、たゞ廣信公司のみ最も勢力があります。

廣信公司 本店チチハル 分店(呼蘭、海倫、綏化、巴彥、黑河、安達、滿洲里、海拉爾、克

山、其他)

光緒三十一年の設立で、黒龍江官銀號が常に廣信公司の壓迫を蒙り事業衰微するに至りましたので、民國八年十二月廣信公司に合併資本金銀五十一萬二千三百兩となりました。

江省の金融機關として紙幣發行權を有し、是を亂發して黒龍江省の臨時軍費を援助し又は自ら暴壓的に行ふ特産買附に資して居ります。

預金又は貸出は殆んど行ひません。

尙本公司は此の外採礦、製粉、製油、燒酎醸造、毛皮業、實商、船舶業、電燈業、特産業等あらゆる方面に手を延ばして活動して居ります。

東三省官銀號 本店奉天

奉天政府管轄で民國三年の設立であります。

資本金現大洋二千万元、

奉天票の爲替取扱が最も多いので、商民が南滿、直隸、山東各地に送金する場合本官銀號を経る者多く、最も多き月は取扱高奉天票七百万元に達します。

貸出高 奉天票一八〇萬元。

中國銀行 本店上海 分店 (黒河、綏化、呼蘭)

資本金現大洋二千五百万元官民合辦の株式組織で齊々哈爾分店は民國三年六月の設置であります。

曾て放漫なる貸出をしました爲め回收不能のもの不尠、近來は消極的方針で特産貸附を爲さず、營業状態は不振であります。

貸出高、現大洋約四〇萬元。

交通銀行 本店北京 支店(黒河其他)

資本金現大洋二千万元 株式組織で、當地支店は民國四年四年の設立であります。

數年前は貸出金額三〇萬元に及びましたが、最近は極度の緊縮方針を採り、僅かに爲替業務に依る利益を擧ぐるのみで、經費の方が多額の爲め毎年欠損を續けて居ります。

貸出現洋三萬元、預金一〇萬元

漢業銀行 本店奉天

合資組織で民國十七年十一月分店が設立されたので、今尙準備時代であります。

東北實業公司 本店哈爾濱

資本金哈爾濱大洋二〇萬元、民國十七年四月分店を設立したものでありますが、もと黒龍江省貯蓄會と稱したもので、馬經理の不正行爲があつたため、公司の經營に係る油坊、火磨等は借款の抵當として廣信公司に回収せられ、目下善後處置に没頭して居ります。

中東實業銀行 本店哈爾濱 支店(安達、富拉爾基)

資本金現大洋一〇〇萬元 株式組織、民國十七年四月の設立であります。

特産抵當貸出が相當に多く、倉庫設立も計畫されましたが、未だ實現に至りません。

中大銀號 本店齊々哈爾 分店安達

資本金哈大洋三〇萬元の合資組織で、民國十六年五月の設立。

故督軍吳俊陞關係武官連の出資に係り、當地錢鋪中最も活躍して居りますが、銀行業務よりもむしろ特産の賣買に依る利益が多いのであります。

功成玉 本店吉林

合資組織、昨年十月の設立で、専ら爲替送金を取扱つて居りますが、懇切な爲め山東移民等が郷里に送金する場合、本錢鋪を利用する者が多數です。

益發合 本店長春 分店(安達、拜泉、克山、綏化、海倫等)

資本金現大洋二〇萬元、

本錢鋪は普通銀行業務以外特産賣買、爲替取扱等を營んで居ります。黒龍江省内各地に分店を設け、事業の範圍も極めて廣汎に亘つて居ります。

寶豐玉銀號 本店齊々哈爾

資本金哈大洋一〇萬元 合資組織、光緒三十三年の設立です。

當地官邊と連絡があり、支那官吏中本銀號に預金する者も多く、公金の一部も預金せらるゝ場合もあり、信用があります。

義利永銀號 本店子、ハル

資本金哈大洋八萬元の合資組織で民國八年十月の設立であります。

工 業



齊々哈爾は邊陲の地で文化の進歩も遅々として捗らず、交通も不便な爲め、工業は餘り發達せず極めて幼稚で未だ手工的工業の域を脱せず經營も其法を得ず、概して不振の状態にあります。多少見るべきものとしては油房六(機械油房三、手工油房三)燐寸製造一、機械製粉一、及び電燈一位で原料大豆の齊々哈爾出廻高一年五、六萬屯に過ぎませんので、油房も規模は小さく奥地の土法油房と共に地方消費を目的とします。

德增火磨 製粉 製造能力一日六〇〇布度、一年一〇萬布度内外で經營困難

德增油房 製油 資本金德豐を合して一二萬元、手押壓搾器一六台、豆粕製造能力一日六〇〇枚年一〇萬枚

〇〇枚年一〇萬枚

德豐油房 同 手押壓搾器、二一台、豆粕製造能力一日七〇〇枚一年二〇萬枚

義增永油房 同 資本三五、〇〇〇元手押壓搾器二二台、豆粕製造能力一日六〇〇枚一年一〇萬枚

黑龍江省魯昌火柴工廠 黃燐燐寸製造

資本金一〇萬元、製造能力一日約八〇箱一年一六、〇〇〇箱、昨年は約

一萬元の利益がありました。が本年は材料工賃高の爲め薄利となり、成績思はしくありません、商標、双地球、梅蘭芳、燧人

齊々哈爾電燈廠 電燈 約二、〇〇〇〇燈毎月一萬元以上の純益があります。

利通醬園 醬油釀造 外二軒と共に製造能力一年七千樽(一樽三〇斤入)

聚源永 白酒釀造 製造能力冬一日二〇〇〇斤、夏一日八〇〇斤

外に黑龍江省万主席が省政府をして三〇萬元の豫算を以て工場設立を計畫し、既に起工しましたが、同工場は裁縫、編物等の家内工業らしく、到底問題とする程の大工業ではない様であります。

## 農 業

齊々哈爾附近の土質は砂質壤土地帯が多く、嫩江流域並に省城以北の一部に壤土地帯がありますが餘り廣くはありません。概して地味は良好と言はれず、殊に省城の東、西、南の一帶に砂丘點在し、アルカリ性含有地帯が少くないので、全く農耕に不適と稱する程では無く、年々耕地は

増加して居りますが、作物はヒヨロ／＼とした實に情ない様なものが多い様であります。のみならず、烏裕爾及嫩江流域が殆んど毎年と云ふても差支ない程氾濫するため、清朝以來開拓事業は遅々として進まなかつたのであります。

農産物の主なものは小麥、燕麥、粟、黍の如きもので、大豆、高粱、玉蜀黍、黑豆等が之に次ぎます。北進するに連れ小麥、燕麥、黍等に限られ燕麥の如きは元々露國人及露國軍隊の需要に依て栽培さるゝに至つたもので最も有名であります。需要減少の結果品質も低下した様であります。小麥、燕麥、粟等は南滿方面へ輸出されます。

蔬菜類は何でも出来、又西瓜が當地の名産で、其のシーズンになると驛にうづ高く積上げられて奇觀を呈します。

特産者の主なるものは次の通りであります。

特産商

増盛公	資本金哈大洋	四〇、〇〇〇元
萬増店		一〇、〇〇〇

裕泰店	二〇、〇〇〇
天德店	一〇、〇〇〇
鴻來店	五、〇〇〇
德生店	五、〇〇〇
中和店	二〇、〇〇〇
祥聚泰	二〇、〇〇〇
聚發店	三、〇〇〇
榮興店	五、〇〇〇
聚源永	二五、〇〇〇
福全長	五、〇〇〇
人和店	五、〇〇〇
糧莊	一一〇、〇〇〇
福來德	一一〇、〇〇〇

瑞	瑞	益	永	益	裕	同
裕	發	發	陞	成	興	發
棧	興	合	合	興	東	慶
五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

**倉庫**

齊々哈爾には純然たる倉庫業者なく、特産商が自己の特産物を保管するか又は臨時に他の特産商の爲めに代理保管するのみであります。

**取引所**

齊々哈爾支那商務總會では目下雜穀取引所設立計畫中であります。資本金は哈大洋三〇万元で

近く實現する筈であります。

**日本人の現況**

明治三十八年滿洲に關する日支協定により開埠地となり、同四十一年日本領事館が新設せられ大正十一年には滿鐵公所の設立を見ましたので、我が北滿出兵當時は在留民三〇〇名に上り、三井物産、朝鮮銀行の出張所等も開設せられ、大いに發展した事もありますが、撤兵と共に再び衰退、大した勢力も認められません。

昨年から貿易館昭和祥の開店を見、一ヶ年賣上高六〇萬元に達し、成績甚だ良好で將來を期待されて居ります。

六月三十日現在日本領事館の調査に依りますと在留邦人は次の通りであります。

	男	女	計
内地人	六四	六九	一三三
朝鮮人	八三	八七	一七〇

是を職業別に見ますと

飲食料品製造	一	其他の商業	三
洋服商	三	軍人	一
土木建築	一	官公吏	七
物品販賣業	七	醫業	二
質商	三	其他の有業者	一
會社商店員	一八	家事被傭人	一
旅宿料理	五	無職	七
酌婦	三		
織物雜貨	昭 和 祥	大貫 與十	五〇、〇〇〇圓
雜貨	義 泰 洋 行	千賀 博愛	三、〇〇〇
雜穀果物	水 田 洋 行	水田 熊八	一三、〇〇〇
洋服裁縫	大 吉 洋 行	青柳 吉松	

同	朝日洋服店	江口 清	一、〇〇〇
同	丸辰洋服店	野口 辰雄	九〇〇
時計商	大松 號	大松敬之助	三〇〇
電燈修理	金 山 當	村田 長生	
質 商	義 興 當	杉浦 由郎	
同	義 順 當	濱崎 清人	八、〇〇〇元
同	東 成 號	中村 唯作	
獵銃火藥	東 亞 堂	森田 關男	
賣 藥	富 山 堂	稻野 ミツ	二五、〇〇〇圓
同	東 亞 堂	三大寺 常太郎	六、五〇〇
賣藥及雜貨	日東 洋行	田野井留五郎	
同	大豐 洋行	楠田林太郎	
賣 藥		塚島 順豐	

旅館	朝日 旅館	鈴木縣一耶	二、〇〇〇
同	龍沙 旅館	益田 龜吉	二、五〇〇
料理店		村田 市松	
醫	慈惠 醫院	堀 ● 清	

將 來

齊克鐵道の敷設並に其支線拜泉線の竣成とは齊々哈爾に對し相當好影響を齎らすものと豫想されて居りますが、何分齊々哈爾は北滿開發の源泉たる東支鐵道より離れて不便な所に位置して居るので、物資の集散市場としては不適當の様に思はれます。従つて商工業の發達も迅速には運び得ないので、依然北邊の障壁として地方行政及軍事の中心として發達して行くものであらうと思はれます。

一三、小藁子(シヤヲホウズ)

小藁子は以前は單に一小待避驛に過ぎなかつたのが、數年前より山東移民が此背後地林甸其他

の地方に土着開墾に従事して以來特產出廻驛として俄かに勃興した市街であります。歴史所でなく、また漸やく生まれ出でたばかりでは是れから發展しようといふのであります。次の發着貨物の内容と増加の趨勢を見れば明かに是れを知る事が出來ませう。(單位米突噸)

年 度	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
發送貨物					
自鐵道内へ	三、三八四	四、二九二	一五、三〇四	四五、二一八	六八、五一九
ウスリー鐵道へ	一一六	四、〇〇〇	一一、三六三	一八、六八〇	二二、八一六
滿鐵へ	五五	一、三五一	一〇、六三一	四、八六五	四、六〇八
計	三、五五五	九、六四三	三七、二九八	六八、七六三	九四、九四三
内主なる貨物					
穀類	八三七	七、四七四	三一、八三八	六五、〇〇一	九〇、二三四
干草	二、四四八	一、九四二	五、一〇一	三、二二四	三、九九五
曹達	二一九	一四〇	二二九	三二五	三二

到着貨物

自鐵道内より	九二〇	一、七六五	五、八五六	一二、七五三	二〇、二四五
ウスリー鐵道より	—	—	—	—	四二
滿鐵より	五	三二	一一二	二五二	三四三
計	九二五	一、七九七	五、九六八	一三、〇〇五	二〇、六二八
内主なる貨物					
織物類	九四	一三八	一九六	二二三	二六六
麻袋	一四	一二六	四六四	一、〇八三	一、二五四
石炭	—	五二	三八二	九九〇	一、三三五
木材	二三一	七〇九	二、八四一	五、五四七	八、八七六
砂糖	三四	五三	八一	一二八	一八五
鐵製品	二九	三二	一〇六	一二七	一八四
穀類	五七	八五	二六二	一、〇四〇	一、七八二

豆油	五	六	二二	四九	二二三
石材	—	一〇〇	二〇三	六九六	一、一四〇

一四、安達站(アンドンヤン)

位置

安達站は哈爾濱より一二七キロ、昂々溪より一四三キロの地點、一眸千里何等遮るものなき平原の中に在り、北は克山、拜泉、林甸、安達、青崗寺南は肇州、肇東等北海に於ける最も肥沃の地方に四通八達の要路を占めて居ります。最近は自動車の便もあり非常に便利となつて居ります。尙安達縣城は北方六〇支里の地點に在りますが其四圍には曹達地多く、地味肥沃ならず、加之縣城の商業は安達驛の發達に伴ひ其の勢力を奪はれ、今は縣城といふのみで寂莫たるものであります。

沿革

安達站は一九〇〇年東支鐵道の建設さるゝまでは見渡す限りの曠原に過ぎなかつたのが、附屬地を買収し安達驛の設置を見るや露人鐵道従事員及支那人商賣の來住するもの相踵ぎ、明治四十五年前後迄は當驛に集散する穀類は一ヶ年五〇〇車内外に過ぎなかつたのが奥地原野の開拓と奥地市街の繁榮により大正二年頃より急激な發展を遂げ、果然黒龍江省中部に於ける主要たる穀物集散市場として今日の發達を見るに至つたのであります。

氣候

昨年度に於ける當地の氣候は次の通りであります。

	平均温度	最高温度	最低温度	合計降水量	最高降水量	十五年平均温度
一月	(一)二〇、九	(一)七、七	(一)三五、〇	二、八ミリ	一、三	(一)二二、四
二月	(一)二六、二	一、三	(一)三〇、五	八、九	四、七	(一)二七、〇
三月	(一)四、八	一、三	(一)二二、六	四、五	二、五	(一)二七、四
四月	五、八	二二、七	(一)一〇、三	一六、八	六、八	五、〇

五月	一二、二	二九、〇	(一)一、五	一七、〇	三、六	一三、二
六月	一九、四	三二、五	四、二	六一、八	四五、一	二〇、三
七月	二三、六	三四、一	一二、二	八六、七	四八、五	二三、六
八月	二二、九	三二、一	九、七	三〇八、一	一五七、〇	二二、三
九月	一四、一	二六、六	(一)二、二	四九、〇	一三、三	一三、六
十月	四、八	二一、五	(一)二二、五	二六、二	二一、八	四、六
十一月	(一)七、四	七、六	(一)二四、六	〇、六	〇、三	(一)八、八
十二月	(一)二七、九	(一)六、五	(一)二七、五	一、八	一、〇	(一)二八、一
合計又は平均	二、九	三四、一	(一)三五、〇	五八四、二	一五七、〇	

市街の概観

市街は線路を挟んで道西、道東の二區に大別せられ、道東は東支クラブや商業代辦所等の前を過ぎ、廣場の彼方に殷盛なる商業地區を形成し、八道街位まであり商家は最近どしどし新築され

店頭裝飾の昇り龍は北滿特有のもので珍らしくもあり又美麗でもあります。道路の幅は廣く以前よりは大いに整頓されましたけれども、一寸雨でも降らうものなら、直にするくになつて歩き難い事は限りありません。

道西は主として特産商や、工場等があり、驛や其他の野積個所にバラ積の大豆の山がうづ高く、見ゆるのも北滿の一情景であります。

人口

人口は約四〇、〇〇〇と稱せられますが、冬になれば五〇、〇〇〇人位増加致します。

輸出品

安達站は黑龍江省中部地方に於ける穀物の集散市場として北は克山、拜泉、林甸、安達、青崗等の各縣、南は肇州、肇東等の各縣の主要物産たる大豆、小麥、其他雜穀の大部分は此の地に集まり、東支鐵道に依て各地に發送せられ、冬期出廻り最盛時には一日大車一二〇〇—一三〇〇台

の多數に上ります。従つて當地に於ける糧棧の數は最も多いのであります。

主なる特産商は次の通りであります。

廣信公司	廣信達	廣信升
廣信久	永衡德	永衡茂
廣升久	福和昌	益發糧棧
協和棧	天豐東	厚巨隆
萬春德	裕泰盛	福順號
永順盛	和順泰	新泰號
裕盛德	和太永	永茂

當地には特産の取引所もあり、官帖建、各月十五日受渡で多い時は一日五〇〇車の手合せのある時もあり、毎月約一、〇〇〇車の受渡があります。

例年大豆の青田物の賣買も盛んに行はれるのでありますが、本年は時局柄どんなに經濟界が變化するものか豫測し得ず又金融も區區して居ますので、外國商店及日本商店共に買進まず、廣信



通、廣信達、東濟、慶泰祥等所謂官商筋が、安値一布度五五仙高値六八仙見當で約一、〇〇〇車程買約したに過ぎません。

輸 入 品

當地方の背後地方へは久しい間、夏季は松花江の舟楫の便を借り呼蘭或は呼蘭河の上流より陸揚運搬せられ、冬季は直接哈爾濱或は呼蘭より仕入れ運搬するを便とし、當地で仕入れるものが案外少なかつたのでありますが、近年に至つて特産の出廻り増加と共に返り馬車を利用して當地で仕入るゝ様になり、著しく雜貨の到着高増加し、殊に一昨々年拜泉、克山地方が俄かに隆盛となりました時、木材其他の雜貨で、當地を經由したもの甚だ多く、一時非常なる活況を呈したのでありますが、其の後は餘り振はず、本年は水害等の爲め奥地からの來客も殆んど無く、閑散を免れませんでした。特産出廻りに入れれば幾分見直す事とせう。

當地に於ける主なる商店は次の通りであります。

興 盛 增                      大 聚 新                      和 太 仁

誠 太 厚	福 巨 合	義 順 祥
義 合 公	天 豐 鉅	興 盛 福
興 盛 東	裕 興 東	興 盛 合

輸 送 統 計

東支鐵道に依る當驛の發着貨物は次の通りであります。

發送貨物

年 度	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
自鐵道内へ	二四、八四一噸	三二、七六八噸	一四九、六五五噸	一七二、四四三噸	一六二、四〇四噸
ウスリ鐵道内へ	一六九、五二〇	一三七、〇五七	一七二、六〇九	二七一、二二六	二四七、九九三
滿鐵へ	一二一、〇二〇	二五六、三四四	一七九、一五七	一六一、八五五	一一四、二八四
計	三二五、三七一	四二六、一六九	五〇一、四二一	六〇五、五二四	五二四、六八一
内主なる貨物					

穀類	三一〇、〇九三	四二〇、六八二	四九二、八三六	五九三、四九六	五一四、九九九
豆油	三、四一八	三、六〇〇	五、八五五	八、〇八七	六、七五一
麻袋	五二九	六五七	六四八	一、〇六四	五六四
藥種	二五八	二五七	二五六	二七八	一〇四
陶器及土器	二五	三二	一〇三	六四	二六
魚類	一一	五六	一二二	一七二	一七八
木材	四八	一〇	一六九	二五一	二三六
石炭	—	二五	一二三	四一三	一三三
皮革及毛皮	七五	四二	一一四	六〇	六四
家畜	三、二六一頭	四〇八頭	五七四頭	三、四二三頭	三、九三五頭
到着貨物					
自鐵道内より	四四、二三九	七四、二九八	九一、一五一	一一、三八三	九三、九六五
ウスリー鐵道より	六二二	一、〇八〇	二、〇四四	一、二八五	一、五三六

綿織物	三九五	六九五	六三二	六五四	五六一
揮發油	六六	一六八	三三三	四一五	七九三
石油	一、八五四	二、三九三	二、三一九	三、〇五四	四、一八三
穀類	一、九三八	二、五〇一	三、八四五	四、九〇八	五、三三六
鹽	六、二二五	六、六五八	七、八八八	八、三九七	八、七八一
薪	三、二五七	六、五八二	八、三六七	一〇、八一九	七、八七二
織物類	一、六八六	三、〇四六	二、八三四	二、七七七	二、三七八
木材	一四、三五三	三三、〇一五	二九、四一三	三三、七二一	二二、六八五
石炭	一〇、五七二	一一、九四六	二六、二一五	三〇、〇二二	三一、三八七
麻袋	四、三三五	五、六六三	六、九四六	七、七三二	五、六四八
計	五八、一六七	九四、二〇七	一一四、四八二	一三六、三五二	一一二、二六六
内主なる貨物					
綿織物	一三、三〇六	一八、八二九	二一、二八七	二三、六八三	二六、七六五

セメント	五九六	一、三二二	一、二七一	一、五八五	一、八七六
煙草	六三三	八九一	九一六	一、一二五	九四一
紙	四九九	六四三	六八一	九七九	九八九
砂糖	八三六	六九一	九三七	四、五三〇	一、八一三
鐵製品	四四二	九八三	一、二三四	一、五一九	一、一九一
木炭品	四〇二	一、二七四	一、〇五四	五九六	四二五
石材及鑽石	一、二一三	一、九八三	一、九〇七	四、二四二	四、三九三
藥種	三六七	八五四	七二三	九一九	八八二
鐵	四三〇	八〇五	八六四	一、六二三	一、四六八
果實	八七五	一、一八七	一、一七一	三、二五八	二、八七九
食料品	三〇六	六二四	七八五	一、三六九	一、一七八
魚類	一、五〇三	一、二四二	一、五八三	二、七〇三	二、〇五一
陶器及土器	二一八	七五九	八九七	一、二六五	一、二五九

馬車用品	三五九	五五八	八三	六八四	二〇七
化粧品	三四六	七二八	四七〇	五〇六	一五二八
雜貨	二五三	四六六	四六〇	九五二	七九三
籠其他	四四〇	七八七	一、一八九	一、七九六	一、二〇七
家畜	三一三頭	四五九頭	一、七一五頭	六五一頭	四六六頭

金融機關

當地に在る金融機關は農産物に對する貸出を主とします。又中には自ら特産の思惑賣買に従事するものが大部分であります。

廣信公司	貸出をなさず
中國銀行	貸出能力 大洋 一〇〇、〇〇〇元
邊業銀行	二〇〇、〇〇〇
東三省官銀號	一五〇、〇〇〇

黒龍江省儲蓄會  
中東實業銀行

100,000  
50,000

右の外中大銀號、安拜儲蓄會、奉天儲蓄會等もあり、國際運輸株式會社も出張所を設けて金融をも行つて居ます。

工業

工業としては油房及製粉であります。

工場名	設立	機械種類	台數	一晝夜豆粕製造高	同豆油製造高
祥巨元	民國一二年	水壓	五三	三、四四五枚	六〇〇布度
福和昌	同	螺旋	二四	六〇〇	一〇〇
元成長	同 一五年	水壓	二〇	一、三〇〇	二三〇
春生厚	同	同	二六	一、六九〇	三〇〇

工場名	設立	機械種類	一晝夜小麥挽碎能力	同麥粉製造高	同麵製造高
北滿製油	大正一〇年	螺旋	五〇	一、二五〇	二二〇
永豐	民國一三年	水壓	三〇	一、八〇〇	三〇〇
萬興號	同 一五年	螺旋	二四	六〇〇	一〇〇
天興福	同 一六年	水壓	三二	二、〇八〇	三六〇
天豐東	同	同	六〇	四、八〇〇	七五〇
計		水壓	二八一	一九、六一五	三、二四〇
		螺旋	九八	二、四五〇	四二〇
裕太	一九二八年	同	二〇〇〇	一四〇〇布度	五〇〇布度
和泰興	一九一八年	同	二〇〇〇布度	一四〇〇布度	五〇〇布度

右の外東支鐵道の農事試驗場にバター製法工場あり、一晝夜五、六布度の製造能力であります

在留日本人

本年六月三十日現在の在留日本人は次の通りであります。

	男	女	計
内地人	四三	三七	八〇
朝鮮人	二九	二二	五一

是を職業前に見ますと

物品販賣業	六
質商	二
會社商店員	九
料理	一
理髮	二
其他の商業	二
醫師	二
其他の有業者	一

無職

七

北滿製油株式會社は西部線に於ける唯一の日本人經營の工場で、成績も良好で國際運輸出張所と共に双壁とも稱すべきもので、其他には餘り有力なものも無い様であります。

將 來

四圍肥沃なる耕地を控え、且つ北滿に於ける農産品の集散上至便の地理的位置を占めて居りますので急激に發展したもので、一時徵稅關係等で、滿溝に其繁榮を奪はれようとしたが、依然として西部線中第一位を保持し、尙益々伸びんとする力が藏されて居ります。

最近呼海鐵道がハルビンの對岸から安達の背後地たる綏化、海倫に達するに至り、一方克山、齊々哈爾、昂々溪間の齊克鐵道が起工され、其の支線が拜泉にも延長される豫定で、安達驛に出廻る穀類が右兩鐵道に吸収されるような事はなからうかと考へられますが運賃の關係上大した影響はあるまいと見る者の方が多い様であります。安達へ出すのと齊々哈爾へ出すのでは浦汐向及大連向とも齊々哈爾の方が高くなり、不利益となり、更に洮昂、四洮、滿鐵との連絡を計るこ

しても運賃高率となるを免れず、現に昨年度大豆の廣信公司手持品を此の経路に依つて大連へ送るべく研究したのでありますが、中間の四洮鐵道が運賃割引を肯んじなかつたので引合はず、遂に全部哈爾濱に送つて處分したそうであります。

又呼海線は昨年は汽罐車及貨車の不足の爲め沿線の滞貨を全都輸送し得なかつたのは事實であります、其内にあつて尙且つ廣信公司其他の官商筋に對しては比較的圓滑に配給され、他の一般特産商は大部分を持ち越して仕舞ひ本年は汽罐車も貨車も倍數にしましたけれども、是等の地方特産商は矢張り安達又は滿溝に搬出すべく計議して居るといふ事實に徴しても、運賃關係と相俟つて依然として西部線第一の大輸出驛として益々發展を遂げて行くものと信ぜられます。

### 一五、滿溝

滿溝は哈爾濱の西北六三キロの地點に位し、縣城肇東縣に屬し縣城肇東は六〇支里の西方に在ります。

別名甜草崗と稱し、十數年前までは微々として振はぬ一小驛に過ぎなかつたのでありますが、

安達驛出廻りの穀類に對し支那官憲の地方課稅甚だ苛酷であつた爲め、其の誅求より遁るゝ爲めに特産品を此の滿溝に搬出する様になつて以來急速の發展を來たし、爾來運賃關係等から安達に次ぐ重要な特産驛となつたのであります。

人口約六、〇〇〇東支線を挟んで東西の二部に分れて居りますが、主な部分は西部で、驛の附近には特産商が多く、大街は五道街位まで出來、安達と同じく龍の看板を掲げた商店が軒を並べて居ります。矢張り近年返り馬車を利用して商品を仕入れる者が増加したので、盛況を呈して參りました。本年は當地も等しく不況を啣つて居りました。

當地の主なる雜貨商は次の通りであります。

天 德 長	新 來 春	日 升 宏
裕 泰 興	興 合 增	永 昌 厚
興 順 長	增 盛 東	裕 順 東
義 和 同	德 發 厚	鴻 興 刊
全 興 糸 房	元 興 福 糸 房	天 發 盛

尙當地に於ける工業としては油房のみで、總て交通銀行關係であります。

庚通	民國七年	螺旋	三〇	五	七〇	一三〇
申通	同一五年	水壓	二〇	一三	一、三〇〇	一三〇

又東支鐵道が安達中心主義に依て東行即ち浦鹽向運賃に於て安達及滿溝何れも大差無き運賃率を適用して居りますので、例年安達に出廻る數量の方が多いのですが、本年度は時局の爲め浦鹽向輸出杜絶の結果、穀類は總て南行して大連へ輸送さるゝのみで、十月十四日改正同十六日より實施の賃率に依りますと一車に就て左記の通り差額を生ずる事となり滿溝の方が有利なので、最近一日の出廻り安達馬車六〇〇台、滿溝四〇〇——五〇〇台で大差無き状態であります。

安達より寛城子まで 三〇〇、〇〇金留

滿溝より 同 二五〇、五〇

對青山より同 二二五、〇〇

八區より 同 二一五、九二

けれども滿溝と安達とを比較致しますと。

1 東支鐵道の運賃政策

浦鹽向には安達の方が有利であります。

2. 距離に於て安達の方近く又滿溝に至る途中に岡があり、不便です。

各產地からの距離及日數は次の通りであります。

産地	安達站へ		滿溝站へ	
	距離	日數	距離	日數
大通縣	一四〇支里	一、五日		
克山	四一〇	四		
望奎	二八〇	三		
安達縣	七〇	一		
青岡	一五〇	一、五日	一四〇	一、五日
拜泉	三二〇	三	三六〇	三、五日
關西			六〇	一

三道鎮	三二〇	三
肇東	六〇	一
肇州	一六〇	二
小城子	一二〇	一、五

3 工場が安達に多い事。

製粉及油房が安達の方が多く従て原料の地方需要が多い。

4 安達に取引所がある事。

安達には取引所があり、賣買に便であります。

斯の如き状態で滿溝は常に安達と其繁榮を競ふて居りますが、遺憾ながら未だ安達に一等を輪する次第であります。

然し將來、安達と共に北滿穀倉の大門戸として益々發展する事は疑を容れざる所であります。滿洲驛の發着貨物は次の通りであります。

年 度	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
-----	------	------	------	------	------

發送貨物

自鐵道内へ	三二、八六一噸	三九、五六五	四一、六九九	六〇、一九六	八五、七二三
ウスリー鐵道へ	六三、一四七	六〇、五八七	七六、一一七	八五、五七一	八二、一八六
滿鐵へ	九四、一九九	一九四、五一三	一四九、九七四	一四八、三七七	一二一、八三三
計	一九〇、二〇七	二九四、六六五	二六七、七九〇	二九四、一四四	二八九、七四二

内主なる貨物

穀類	一七六、六四八	二八四、〇九三	二五四、四六九	二八三、九三九	二八〇、三〇六
干草	一一、〇六九	九、七五一	七、九三七	八、三三一	七、四七三
豆油	—	—	二三四	三七八	八六
麻袋	三七六	三六六	五八六	六六一	五三六
木材	五	四	六七九	二八三	二七五
家畜	九五四頭	七四四	二、〇六四	二、六九六	三、九八九

到着貨物



内主なる貨物

自鐵道内より	一六、六八五	三六、二七四	三七、〇七〇	三三、八〇八	三七、三二五
ウスリー鐵道より	一二九	四三七	三三六	六〇七	六六三
滿鐵りよ	四、九〇六	六、六七三	一〇、九四二	一〇、六七十	八、一六九
計	二二、七二〇	四三、四三四	四八、四八二	四五、〇九二	四六、一五七
麻袋	二、四九二	四、〇八三	四、〇四六	三、九六六	三、九四三
石炭	三、〇一九	四、三四四	六、七一	七、五六六	八、三七六
木材	二、六七七	一三、七八八	一一、二二一	九、九四三	九、六六七
薪	二、〇六二	三、九一六	四、三五七	四、一九一	三、八〇六
鹽	三、六一八	四、六六五	六、二六六	四、八五四	三、〇六八
穀類	六〇三	一、九一〇	二、三九五	三、二〇九	四、五五〇
殘物類	七八九	一、二二一	一、〇八三	一、〇一九	八八一

石油	九九九	一、一八二	一、一〇五	九六四	一、八九〇
鐵製品	一七八	六一一	二六三	二六九	二七六
セメント	三〇七	四五一	八九二	四九四	五〇八
綿花	一八五	二九〇	二四九	二五六	二四六
煙草	二六八	四六三	四三二	四〇一	三一〇
紙	二二四	二六二	二四二	二一七	三〇四
砂糖	二七九	二八九	三四五	四六九	五三一
藥種	二〇八	三六八	三六七	三八七	三一六
木炭	八七八	九九四	一、四一七	一、八八〇	一、九二九
食料品	二〇二	三二九	三三八	三〇三	二五三
粘土及砂	五二五	七七〇	一、三九一	三八六	四二九

石材	三八四	一、三二七	七三五	七六七	五七二
果實	一八七	三二八	三九〇	四一七	四二〇
家畜	九三	一一六	五九	二〇〇	一二九

### 一六、對青山

對青山は哈爾濱より西方三一キロ、呼蘭、肇州街道呼蘭の西方約五〇支里の地點に在ります。人口二、〇〇〇を算し古くより農産物の集散地として其の名を知られて居りますが、安達、滿溝兩驛の發展に伴ひ、多少繁榮を是等の地方に奪はれましたが、呼海鐵道の廟台子に於ける連絡が涉々しくないので同鐵道に依つて呼蘭に出廻つたものを馬車で當驛に搬出するもの多く、比較的盛況を維持して居ります。

當驛の發着貨物は次の通りであります。(單位キロ噸)

年 度	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
-----	------	------	------	------	------

#### 發送貨物

自鐵道内へ	五、九四四	八、六八七	五、九三三	一四、八一七	一八、七八三
ウスリー鐵道へ	二六、四七九	二一、〇三二	一五、七八一	二五、六三〇	二〇、六六八
滿鐵へ	二〇、五九五	八八、九九〇	六二、九六三	六七、九八六	三七、六七六
計	五三、〇一八	一一八、七〇九	八四、六七七	一〇八、四三三	七七、一二七

#### 内主なる貨物

穀類	五二、七五九	一一八、〇三五	八三、〇四八	一〇七、六二六	七六、〇六八
麻袋	一一六	二〇九	二六九	二三四	二三六
野菜	一三	三八三	四一九	三九七	七三
家畜	三三七	三一	四七	三五六	七〇七

#### 到着貨物

自鐵道内より	一、六〇四	三、一九二	三、六一三	四、六六三	四、九二六
ウスリー鐵道より	四三	三九七	八二	一六〇	一九〇
滿鐵より	四、〇四一	七、二六四	九、二二九	五、七六八	六、五三〇

計		五、六八八	一〇、八五三	一二、九二四	一〇、五九一	一一、六四六
内主なる貨物						
麻袋	八三一	一、六四四	一、二六九	一、三〇四	一、一六二	
穀類	一〇七	一六二	一五一	二九九	一、一六三	
木材	一五六	七四四	八三三	一、三二〇	一、三五九	
石炭	三、四九九	六、七三三	八、七一三	六、三七五	六、一一五	
木材	一七二	一五四	二六二	二二〇	二四〇	
鹽	一一八	一五五	三〇五	八〇	二二七	
石油	二	一	九八	二〇八	二八四	
薪	九七	一三九	八三	一八五	二三九	
織物	三九	五八	一〇六	四〇	五二	
家畜	三六	一五一	一八三	三二二	一三三	

### 一七、廟台子(メイタイズ)

哈爾濱より一〇キロ、呼海線の貨物連絡驛として囑目される所ではありますが、現在では設備不完全で、商務代辨所の苦力を使用する爲め荷役渉らず、一日五車乃至一〇車に過ぎません。此の爲に呼海線に集まつたものが呼蘭から對青山に馬車で搬出されるものが多いそうであります。然し將來呼海沿線の發達と、當驛の設備完成に依つて有望なる連絡驛となるものと豫想されま

す。

當驛の發着貨物は次の通りであります。

年 度	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
發 送					
自鐵道内へ	七八噸	五五噸	一、三九八噸	三、八二〇噸	二七、九二九噸
ウスリー鐵道へ	一	一	三、九三〇	五、七〇八	二四、七二五
滿鐵へ	八二二	一	一二、六四三	一六、九九六	四八、二三九

計	九〇〇	五五	一七、九七一	二六、五二四	一〇〇、八九三
内主なる貨物					
木材	八二五	三三二	六三	二二	六〇五
穀類	—	二〇	一七、七八九	二六、三九七	九九、八六七
家畜	四〇五頭	五三頭	一、六五四頭	七四九頭	一、一〇八頭

到着

自鐵道内より	一、七八六噸	二、九八六噸	三五、〇〇七噸	二二、六一四噸	三四、一三二噸
ウスリー鐵道より	—	—	—	—	九、二七〇
滿鐵より	—	—	五、〇一七	一八、八二三	三〇、三四四
内主なる貨物					
セメント	一六	七五	一、二三五	一、五六四	一、二九〇
穀類	一一五	一三〇	五五三	七五〇	七〇五
木材	一五二	六六	一一、九二七	七、九〇五	一七、四七七

鹽	一、四四三	二、五九六	一、九八一	一、五一九	一、四九八
石炭	—	—	二、九八六	一五、七八二	二九、二三三
鐵製品	—	—	一一、四三四	二、二五九	九、八〇四
石材	—	—	五、一四二	七、四二一	一、七六一
家畜	一頭	二二頭	二二四頭	三、〇〇七頭	二、二二八頭

一八、西部線に於ける本年度農産物收穫豫想

東支鐵道西部線の主要驛の情勢や附近の産業等に就ては既に明かにした所でありますが、其内最も重要なものは農産品であつて、北滿を目して寶庫と稱し、世界各國人の注目を集めつゝある所以は肥沃の平野が益々開拓され、天然の富を齎らす所の豊かなる農産に恵まれて居るからであります。西部線が其の北滿の農産總額の大部分を占むる事を知る時、今日までの功績の如何に大なりしか、又將來益々其の活躍に俟つ事切なるものある事を知る事が出来ませう。

從て農産物の收穫の如何は單に西部線のみならず、北滿全体の市況に大なる影響を齎すもので

あります。

齊々哈爾滿鑛公所では本年度の水害箇所は低地にて平常でも餘り上出来で無い箇所が多く、天候も數字上には決して悪い方では無い。小麥の如きは草丈〇、八五米内外穗長〇、一一米・一穗平均三二粒―三五粒内外を普通とし、却て近年稀に見る良好なる作物で、たゞ收穫的に於ける降雨過多の爲め幾分品質の低下は免れないであらうけれども拜泉、克山地方に就て見るも前年程の影響も無く、平年の一割五分内外の増收を見越し得られ、大豆作も順調であるを力説する所あり極めて樂觀されて居りました。

安達では、小麥七分作、大豆も毎年よいと云ひ乍ら事實出廻りを見れば反對の結果に終りつゝあるので、本年もきして悲觀の必要もありませんまいけれども、餘り樂觀し過ぎて、失敗するよりも悲觀説を採つて用心に越す事はなからうと云ふ意見でありました。

一般に本年度は當初順調に経過して居りましたが、七、八月に入つて曇天多雨で日照時數少く各作物の結實に悪影響を及ぼし、成熟を懸念され河水の氾濫した箇所も妙ならず、後ち天候回復して稍々見直しましたがけれども既に遅く、結局減收を豫想されて居ます。

本年の播種面積は次の通りであります(滿鐵調査、單位日本反)

	西部線	呼海線	東部線	南部線	哈爾濱管區	松花江下流地方	北滿其他地方	計
大豆	八、四九、二〇三、三七、三〇三、三九、七五〇	三、九〇、四八〇、二〇二、四〇〇	四、四一、八二〇	九、二六〇、二三、七五、七六〇				
其他豆	四、四、二六〇	一、四、二〇〇	一、二六、一五〇	四、五、七〇〇	二、四〇、二五〇	五、九〇〇	一、三九、二九〇	
小麥	三、六四、二六〇	一、九四、九八〇	一、〇〇、六六〇	一、五五、六七〇	七五、七三〇	二、四六、五六〇	二、七二、四〇〇	一〇、九五、二一〇
粟	三、九七、九八〇	一、八六、三三〇	一、二七、七〇〇	二、三六、八〇〇	七五、七三〇	一、九二、三三〇	七、九九〇	一一、七〇、六六〇
高粱	三、三六、九八〇	一、〇三、六六〇	九三、七五〇	三、三三、三三〇	—	一、六八、〇〇〇	一、三三、〇四〇	一〇、三〇、五、八〇〇
其他雜穀	二、八六、五〇〇	一、四二、四九〇	一、〇九、九五〇	一、九〇、二五〇	二〇二、二五〇	一、二六、八〇〇	二、三〇、九五〇	八、九四、一、八九〇
小計	三、七四、二六〇	九、八四、九〇〇	七、七三、六二〇	三、五八、九〇〇	三、七八、六七〇	三、〇七、六〇〇	六、六八、三〇〇	六、八六、一、五〇〇
其他	九五、七三〇	四三、九五〇	六二、七六〇	五、二五〇	三、七八〇	五、八六〇	一、二八〇	三、三三、五二〇
特別作物								
合計	三、八〇、九八〇	九、九八、八五〇	七、八〇、五三〇	三、五九、〇五〇	三、八二、四五〇	三、〇八、四六〇	六、九〇、五八〇	六、七二、九、六六〇

作柄に就て平年作を一〇〇とすれば本年度作柄は次の通りであります。

種別	西部線		北滿其他地方		北滿合計	
	本年 收穫高	前年 推定 實收高	本年 收穫高	前年 推定 實收高	本年 收穫高	前年 推定 實收高
大豆	九八	九五	九五	九五	一〇〇	一〇〇
其他豆類	一〇二	八四	九七	九二	一〇九	一〇〇
高粱	九五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇七	一〇〇
粟	九九	九八	一〇〇	九八	一〇二	一一六
玉蜀黍	一〇〇	九六	九七	九八	一〇二	一二〇
小麥	八九	八六	八九	八七	九五	九七
水稻	一〇〇	一〇二	一〇九	一〇六	一〇二	一〇〇
陸稻	九八	九五	一〇〇	九七	一〇〇	一〇〇
其他雜穀	九六	九七	九七	九六	一〇三	一一一
平均	九八	九五	九七	九七	一〇一	一〇六

是を前年度と比較しますと次の通りで播種面積の増加に比し收穫量が殆んど前年と同様であります。(單位米噸)

種別	西部線		北滿其他地方		北滿合計	
	本年 收穫高	前年 推定 實收高	本年 收穫高	前年 推定 實收高	本年 收穫高	前年 推定 實收高
大豆	一、二六、五〇	九八、六〇	二、〇七、五〇	一、八七、三〇	三、一四、〇〇	二、八四、九〇
其他豆類	四六、〇〇	五二、三〇	一六、九〇	一五、四〇	二〇、九〇	二〇、七〇
小麥	四九、五〇	三九、二〇	九六、六〇	九五、七〇	一、三六、二〇	一、三六、九〇
粟	六三、〇〇	五四、二〇	一、三四、八〇	一、〇五、四〇	一、八二、〇〇	一、五五、六〇
高粱	四九、一八〇	四七、七〇	一、〇三、六〇	一、〇四、三〇	一、五六、七〇	一、四八、〇〇
其他雜穀	四七、七〇	六三、四〇	八四、六五	九四、四九	一、三三、四〇	一、五七、九〇
合計	三、二六、二〇	三、〇二、五〇	六、二九、四〇	二、七三、八〇	九、五八、六〇	九、〇七、二五
比較増減					(一)三五、四七	五三、二九

右の内地方消費を差引き輸出可能量豫想は次の通りとなります(單位米噸)

種別	地方		合計
	西部線	其他北滿各地方	
大豆	九一四、九五〇	一、大四二、〇六〇	二、五五七、〇一〇
其他豆類	一一、〇五〇	一六、二五〇	二七、三〇〇
高粱	二一、三四〇	三、〇一〇	二四、三五〇
粟	三七、四三〇	(一)一〇、八一〇	二六、六二〇
玉蜀黍	五一〇	二、五一〇	三、〇二〇
小麥	一八三、四七〇	一一七、三〇〇	三〇〇、七七〇
水稻	(一)七、三〇〇	(一)五、九八〇	(一)一三、二八〇
陸稻	(一)一四〇	(一)一、二三〇	(一)一、三七〇
其他雜穀	七一、〇一〇	一一、一六〇	八二、一七〇
合計	一、二二三、三二〇	一、七七四、二七〇	三、〇〇六、五九〇

品質は小麥は昂々溪地方出廻品平均一二一—三ゾロ、安達出廻品は一一七ゾロ—一二五ゾロ平

均一二〇ゾロ、滿溝出廻品は平均一二二ゾロ見當で、南部線は一一五ゾロ—一二四ゾロ、東部線は一一六ゾロ—一二五ゾロ、松花江下流は上等の見込であります。

大豆は滿溝西方背後地たる肇東、肇州方面及安達東方背後地たる拜泉、明水方面の出廻品は概して完全粒は瘠小扁平のもの多く不實粒七—八%に達し、色豆は四—五%で其の品質良好ではありませんが、概して良好であります。然し最初の出廻品は鐵道沿線に近いものや不良品の處分を急ぐため餘り良好無事が多く廻り盛期に入つて良質のものを見るを普通としますから大した不良品は無い模様であります。

### 一九、交通政策に就て

本地方は一九〇〇年以來單に東支鐵道のみによつて開拓されて來たのでありますが、大正十五年洮南昂々溪間の二二〇キロメートルを連絡する洮昂鐵道及松浦、海倫間一二五哩を繋ぐ呼海鐵道の二鐵道が竣成し、賓黑鐵道の外引續き左の如き豫定線を見るに至りました。

賓 黑 鐵 道      哈爾濱黑河間      一〇〇〇キロ

齊 綏 線	賓州鐵道の齊々哈爾より墨爾根間支線	四八〇支里
齊 克 鐵 道	齊々哈爾克山間	
對 黑 鐵 道	對河山 黑河間	三五〇哩
拜 泉 線	齊黑線の泰安鎮より拜泉間 支線	
安 拜 線	東支鐵道の安達より拜泉間 支線	一〇〇キロ
四 望 線	呼海線の四方台より望奎間 支線	一三キロ
洮 索 鐵 道	洮安索倫間	一三六哩
蒙 古 橫 斷 鐵 道	海拉爾 庫倫 烏里雅蘇台 科布多間	一九五〇哩
蒙 古 橫 斷 鐵 道	恰克圖 庫倫 張家口間	

賓黑鐵道は一九一六年露亞銀行と支那政府とに依つて契約され、後日本横濱正金銀行及東支鐵道が参加した哈爾濱より墨爾根を経て大黒河に至り別に齊々哈爾墨爾根間の支線の豫定線を持つもので、現在の呼海鐵道及齊克鐵道は將來其の一部となるべきものであります。之と同じ様な對青山・黒河間の對黑鐵道は現在單に豫定に過ぎず餘り有力ではありません。

齊克鐵道は齊々哈爾、克山間を連絡するもので、一時拜泉を迂回するか、直接克山へ通するかに就ては克山及拜泉の双方の引張り合ひとなり、洮昂鑛路當局も建設資金提供の多寡により遂に克山直通をし、泰安鎮より拜泉へ支線を設ける事に決定を見一部起工中のものであります。一時八ヶ間しい問題であつた洮昂鐵道と東支鐵道のクロス問題も齊々哈爾昂々溪間を此の齊克鐵道の支線として遂に東支鐵道も承認し既に竣工致しましたが、此の建設材料は米國から供給されて居るさうであります。

此の齊克鐵道に對抗して東支鐵道でも自己の培養線として安達から拜泉に達する支線を建設する事となり、露支間の意見も一致したと傳へられます。

四望線は呼海線の支線で四方台、望奎間の僅か一三キロに過ぎぬ小支線ではありますが、望奎は特産物の集散地としてあまねく知られ拜泉以南安達に及ぶ一帯の特産物が一層經濟價值を有する事となるべく尠なからず期待されて居ます。然し資金が望奎縣當局より支出される筈なので、望奎縣民の一部から反對の聲もあると云はれて居ります。

洮索鐵道は興安開拓、蒙古開發を目的とし洮安索倫間を連絡するもので、もと洮南を起點とす



る豫定であつたのを洮安に變更され、既に奉天當局では土木工事の入札を行ひました。建設材料は獨逸に仰ぎ建設資金は米國に仰がんとして居るので注目されて居ります。奉天側では東北省の財力で之れが建設を爲すものであると宣傳して居りますが、背後には獨逸及米國の密接な關係があるものと云はれて居ります。

蒙古橫斷鐵道は支那、露國、白耳義等互に其手に收めんとしましたが、一昨年勞農政府が知多庫倫間の鐵道發設權を外蒙自治政府より得たと報ぜられて居ますが眞偽は不明で、又海拉爾よりするものはロシヤ帝政時代外蒙に勢力を張つた時代の計畫であります。

是等の鐵道は北滿の穀倉の中心地帯或は蒙古を貫通するもので、其の齎らす利益は莫大なるものと云はねばなりません。

呼海線が海倫の發展を助け、洮昂線が、泰來及昂々溪の發達を促した様に、克山、拜泉も齊克鐵道又は安拜線に依つて今後益々急激の進展を遂ぐるものと信ぜられます。

而して是等の鐵道が完成された暁には是等の鐵道相互間に目覺しい、特産貨物の爭奪戰が開始さるゝ事でありませう。

支那側では克山拜泉から洮昂線を経て打通線に連絡を計り、滿鐵は之を洮南より四洮鐵道を経て自鐵道に吸収せんとし、東支鐵道は安達を中心として安拜線に依り舊勢力の維持に力めると共に齊克鐵道との連絡協定も契約済だとも云はれ、又一方呼海線も自鐵道の培養線たらしめ様と考へて居る様であります。

各々ゲーチの關係や運賃關係等に依つて何れの鐵道が最も有利であるかは豫想する事は許されませんが、兎に角、是れが爲め將來の北滿殊に東支西部線接續地方の發展を促進する事は疑を容れざる所であります。

又最近地方の冬季間の交通機關として急速の發展を遂げたのは自動車で、最初齊々哈爾黑河間に運轉されたのが成績が良好であつた爲め安達、拜泉及克山間、海拉爾蒙古各地間其他、冬季間の奥地方との交通は大抵自動車に依ります。是れが冬季結氷期間のみに限られる事が遺憾であります。安達及齊々哈爾には二〇〇台乃至三〇〇台位はあると云はれて居ります。

## 二〇、蒙古貿易に就て

蒙古として云へば、一つの青色の狼と一つの鼠色の牝鹿とを祖とし、蒙古人種の思想と力と氣質と精神とを行爲及生活の上に極端にまで發揮し、彼の奇蹟的武畧は滅國四〇と稱せられ、霸業は遠く東歐に及んだ偉人「テムチン」即ち成吉思汗や、支那の天下を統一して國を元と號し古今未曾有の廣大な疆域を領有し、當時我國にも來寇して果さなかつた成吉思汗の孫忽必烈等の雄圖を想ひ、又ゴビの、砂漠を連想致します。

抑々蒙古とは内蒙古、外蒙古、額魯特蒙古呼倫貝爾を總稱するもので其の面積は約一五〇萬方哩、支那本土より廣き事實に十餘萬方哩であります。

如斯曾ては戎狄東胡として恐れられ洋の東西に覇を唱へた事のある赫赫たる歴史と、廣大なる土地を有する蒙古民族は、今尙原始的放牧の民として水草を追ふて轉々し、文明の風を外に昔乍らの夢を追ふて居ります。

從來蒙古は鎮國獨立の國で隣接した支那及露國との外交關係も一個の限定せられた枠内に動いて居たに過ぎず、従つて蒙古經濟界も其の羈絆を脱せず、極く最近に至るまで、蒙古人で商業に従事するもの無く、彼等の必需品は總て外來の支那商人が其の大部分を供給し、又一部露人の供

給する所でありました。

蒙古貿易に於て勢力あるものは天津及張家口方面に在る支那商で、張家口道路の改築の結果、遙か北方の産物までも張家口經由輸出さるゝ事が多いのであります。

北滿方面に在つては當初甘珠爾廟及桑貝子の定期市を利用して居たのでありますが、東支鐵道開通以來、右定期市の外海拉爾、及び滿洲里に於ける取引も發達し、家畜の取引も隨時是を行ひ又日用雜貨類も鐵道に依つて輸送せられ、進んで露支商人は各王旗内に店舗を置き或は店員を派して販賣するに至りました。

一方露國は外蒙古にソウエート制度を布き、恰克圖・庫倫間に鐵路敷設の基礎工事を完成し、ウエルフネウージンスク庫倫間には定期航空をなし、又國境に於ける監視を嚴重にして、家畜及毛皮は特に官憲の諒解あるものを除く外は輸出する事を許さず、周到なる注意を以て露國を對家貿易上優越の地に置くべく努力し、ツエントロソユーズ、毛皮商會、及キルキズ國營商業部、ソウトルグフロツト等の貿易及運輸機關を設け、就中、ツエントロソユーズが最も有力で、中央並に西部蒙古に主として獨占的活動を續け、又蒙古國境に蒙古人間に流行する「キヤフタ」皮一〇、

〇〇〇枚の製造能力を有する皮革工場を設立し、『ウランハイ』地方の『クラシヌイ』市に、皮革工場や製粉工場を設置したと云ふ事であり。『ウランハイ』共和國や外蒙古共和國の商權は其の掌中に收められたと云つても過言でないまでに成功し、更に北滿の一部である呼倫貝爾や内蒙古方面へも着々と進展策が講じられて居ります。

米國も亦米蒙會社を設けて毛皮を買占め、海拉爾を経て輸出せんとし、豚毛及毛皮の買附に獨逸の投資するものあり、英國の食料品輸出會社は目下休止中ではありますが、時々家畜や羊皮を買附けて輸出致します。

是等の外國資本の多くは仲買人の手を経て投ぜられる爲めに多少其の活躍程度を阻害せられまされども今後漸次其の勢力を増すものと見られます。

然るに我日本としては今日まで蒙古貿易に就ては經驗も無ければ、施設も無く、何等顧る所無きは誠に遺憾の至りであります。

翻て蒙古の一ケ年の輸出額を見ますに、勿論明確な數字は得られず、又年々輸出力減少の傾向にある様であります、大約次の通りであります。

牛	一〇〇、〇〇〇頭	獸皮	一三〇、〇〇〇枚
羊、山羊	八〇〇、〇〇〇	緬羊皮、山羊皮	五〇〇、〇〇〇
馬	七〇、〇〇〇	仔羊皮	五〇〇、〇〇〇
羊毛及駱駝毛	四〇〇、〇〇〇布度	毛皮	二、五〇〇、〇〇〇
馬毛、蒙古牛毛	四〇、〇〇〇	獸脂	三〇、〇〇〇布度

是れが金額は約一千五百万圓で此の外にまた開かれざる賣庫が幾多残されて居りませう。

最近日本に於ても蒙古を以て『東洋の濠洲』として漸やく注意を拂ふに至りましたが、蒙古の家畜は人工を加へざるものであり、家畜個體及畜産物共増殖及産出増加に向つて特に努力する事なく、二、三年間天災なく家畜の生育及頭數増加順調な後には往々大雪等があつて、不慮の斃死激増し、折角増加に向つた頭數を忽ちにして失つて仕舞ふ事があるので、年と共に頭數が増加すといふ事は望れず、緬羊の如きも未改良で産毛量も僅少であります。従て品質は何れも著しく劣等ではあります、比較的多數集散するのと、價格低廉な點を特長とし、是れに適宜、飼養管理の改善に依つて飼料欠乏の爲斃死する莫大なる家畜を救ひ、又品種の改良に依つて家畜の能

力の向上を計り、或は防疫の予防を徹底的に講じさへすれば、將來見るべきものがありませう。されば日本に於ける食肉の不足を補ひ以て食糧問題を緩和し、國民生活の一助ともする事が出来ようし、羊毛其他も近來需要の増加を來たした毛布や、毛織物にも使用する事が出来ようと思ひます。現に羊毛の始きは張家口を經て輸出せられるものは従前より日本に於ても使用されて居るのであります。

又他方現時蒙古に販賣せられる商品は主として支那製品で、粗悪にして且つ非常に高價でありますから、我日本商品を蒙古向に多少の改良を加へて廉價に供給するならば、必らずや廣大なる販路を獲得するに至るでありませう。

乃ち家畜の買附は素より自ら各地に赴いて蒙古人より直接買附ける事を理想としますが、蒙古人の習慣もあり、且つ露支人等斯道に經驗あるものゝ内に介在して取引する事は困難でもありませうから、最初は是等の仲介業者を介して買附ける方が得策でせう。

又本邦商品の販路擴張に就ては海拉爾を中心として其他の地に店舗をおき商品を卸賣し、一方店員を派して各地に販賣せしめ、廿珠爾廟道他の定期市は極力之を利用するを可とします。

而して是れが根本策として

#### 1、調査機關の設置

民情、風俗、習慣、貿易の調査、蒙古産物の改良と利用の研究を爲す事、

#### 2、商品陳列館又は貿易館の設立

日本商品の展示紹介及仲介を爲し併せて蒙古物資を母國商品工業者に紹介する事。

最近哈爾濱濱松浦商會が此の目的の爲めに海拉爾に進出既に開店渡しました、

#### 3、金融及運輸機關の設立

海拉爾方面では金融機關に乏しい爲め之れが便宜の爲め銀行を設立し又運輸會社の設定に依つて資金と運輸の圓滑を計る事

#### 4、語學校の設立

また日本人で蒙古語に通ずるものが誠に少く、蒙古語を習つたといふと馬鹿にする傾向がある位であるが、蒙古語に通じて蒙古王公其他有力者と親交を結び彼等の信頼を得なければならぬ。蒙古貿易に於て是れが最も重要であります。又日本留學

を志す蒙古青年の多い現在に於て、日本留學の準備として、又日本をよく知らしむる爲めに彼等に日本語を教ふる機關も必要であります。

#### 5、練習生の派遣

猜疑心に富む蒙古人の習性から假令茲に數千万圓の對蒙貿易會社を設立しても語學に通ぜず、事情に通ぜず又蒙古人の信用を得られない間は何等の事業をも成し遂げ得ないのであります。蒙古王公のよき紹介状がなければ容易に信用もせず、品物も買つて呉れないのでありますから對蒙貿易の第一歩として人材の養成が必要であります。先づ練習生を派して語學の研究は勿論の事、牧畜、羊毛、毛皮及對蒙輸出雜貨事情の研究に没頭せしむる事。

#### 6、醫師の派遣

現在蒙古王公及蒙古の最も信頼しつつあるものは日本の醫師であります。海拉爾の朝鮮醫師李氏父子の如きは獻身的に此の方面に努力し、毎年蒙古奥地に診療に出張して居りますが、彼我の親父と接近を計る上に誠に結構の事と云はねばなりません

此の外獸醫を派遣して蒙古人の資産である馬、牛、羊等の診療改善に従事するならば、彼等は忽ち神の如く尊敬し、總ての日本人に對しても好感を持つに至りませう。最初から一獲千金を夢みたり、金儲けのみを目的としては一度きりで永續せず、粗製の商品やロクでも無い安物を誤魔化して高く賣り附け得たるものもあるようでありますが、まるで冒險小説に見る様に蠻地に入り込んで、高價なものを二足三文の安物と物々交換する盜賊の様な事が蒙古貿易と思へば大きな間違であります。決して彼等でも安い物ばかりを欲するもので無く、便利なものや、珍らしい必需品は相當高くとも争ふて買ふものであります。而かもそれが頑丈な事を第一條件とする故、日本製造家や商業家としても特に此の點に注意を拂はねばなりません。又日本人として入蒙する時は官憲が八ヶ間敷で困難だそうですが、是れが緩和策を講ずる事も肝要であります。

兎に角蒙古貿易に就ては最早や議論の時代でなく、實行の時であります、有識者の奮起を期待致します。

## 二二、在留日本人の現在と將來

一度哈爾濱を去つて奥地方に入りますと在留日本人は先づ貧弱と云ふより外無く、依然として娘子軍や不正業者が目立ちます。又是等の奥地在留者の多くは其の地に在住する事既に一〇年或は二〇年に垂んとするといふのでありますが、十年一日の如く其處に何等の進展の跡が認められません。

而かも是等の僅少の人々が一致團結する美風なく、同胞相喰み、骨肉相爭比互に嫉視して他人の欠點を擧げて是を陥れんとし以て快となし、已れは拔擢の功名を得ん事にのみ腐心して居る様な事は隨所に見聞する所であります。

斯くの如く内にありては互に相争ひ、外に向つては支那其他の外國商店の勢力に壓倒され、或は支那官憲から壓迫を受くるに於ては其の將來は果して樂觀する事が出来ませうか。

何時までも娘子軍や不正業者の天下でもありますまい。こんな時代では日本人の勢力等到底認め得られません。假令一人にても確固たる精神を有する眞面目な營業者の進出を以て其の進展と稱すべきであります。然し今日までは地方との交渉も尠く地方事情にも暗く、又財力あり智力ある人は求めて不便な地方に這入る必要も無いといふ所から、自然閑却されて居たのも無理からぬ

所ではありますが、此點から見て吾地各地に貿易館の設置された事は誠に結構な企であり、是を中心として將來急速の進展を計り得るものと信じます。尤も最近各地に於ても在留民自体に覺醒の機運も認められ、眞面目な商業に従事する人々が増加しつゝある事は事實であります。

幸にして吾地方面に販賣せらるゝ所の商品は主として日本商品で、蒙古向商品は支那製品が大部分であるとは雖も、日本商品が此の方面に侵入する事も容易であり又取引機關や金融機關が欠けて居りますので、大抵哈爾濱で仕入れられるため外國商品等は非常に高いものとなり、地方向としては不適當の様に思はれ、依然として日本商品が優位を占め得るものと信じられますから、日本商人の立場は有利であらねばなりません。されば勤勉努力以て最後の勝利を獲ち得ん事を希ふものであります。

尙ほ次の諸點に注意する事が肝要であります。

#### 一、地方物資利用の研究。

日本商店の各地に進展する事の遅れて居る事は、一は其の地方との取引關係の薄い事であつて、當該地方の特産品の輸出が有望となれば必らず急激の發展を來たすものであります。

から、地方特産品の利用を研究する事が必要であります。

牛羊麕、牛羊肉、毛皮、羊皮、羊毛、バタ、等の輸出等は勿論の事、此の外他に種々の隠れたる有望品や牧畜、養蜂、澱粉製造、其他の事業がある筈であります。是れが利用や、輸送其他の關係を研究して以て日本の工業原料又は食糧政策の一助を計るのであります。

## 二、親交機關の設置。

哈爾濱でさへ、日本人俱樂部をつぶして仕舞つたのですから地方ではより以上に困難かと思はれますが、少数でありますから機會毎に集合して親交を厚くする事を考へればよいと思ひます。滿洲里に於ける運動會、マラソン大會、劍道大會、庭球大會、等の体育方面から圍碁大會、將棋大會、さては素人芝居、安達の浪花節大會、圍碁大會等と和氣霽々として快く感じられ又確かに好果あるものと信じます。

## 三、地方官憲との融和。

どうも地方官憲は最近在留民のみならず旅行者でも日本人に對して壓迫氣味の様に感じられますが努めて之と融和を計り、常に我々の誠意を諒解せしむる事が必要であります。

## 四、開墾地の増加。

西部線での開墾地は、滿洲里、海拉爾、齊々哈爾の三個所に過ぎません。近年昂々溪、安達、滿溝、克山、拜泉等の發展は著しいものであります。進んで是等の地方を開墾地たらしむべく支那に慫慂すべきであります。

又當該地方に在留するもので無く、地方發展を期待するならば、各地の有力商店と關係を結ぶか左記機關を利用するを可としまさう。

### 一、貿易館の利用。

齊々哈爾に於ける昭和祥、海拉爾に於ける松浦商店等に見本を送附し調査及販路廣張に就て援助を依頼する事。

### 二、商務代辦所の利用。

東支鐵道附隨事業として各驛に商務代辦所があり、一定の手數料を以て砂糖、麥粉其他雜貨類の委託販賣、又は羊毛其他の委託輸送を取扱つて居ります。現在では外國商店のみが之を利用して居る様であります。日本商店としても研究する必要があります。

## 二二、結 論

東支鐵道西部線沿線地方は誠に興味深く且つ大いに將來に富んで居ります。或る人は此の北滿を指して東洋のアメリカと稱し、蒙古を指して東洋の濠洲と稱して居ます。此の北滿が丁度北米合衆國の歩んで來た道と相等しい所を進みつゝあるを見れば、今日に行き詰つたアメリカに代るべきは我が北滿の將來であると叫んで居ります。北滿が豊穡な土地であるといふ事は今更云ふまでもなく此の力強い伸展力に富む農産を基準とする北滿と總てがまたXと？に覆はれ、偏に世人の開拓に待つ蒙古とは實に我々の注目の焦點であらねばなりません。

然るに不幸にして茲數年間は郭松齡の反亂、張作霖の變死、呼倫貝爾獨立事變、及今回の露支紛争事件等が次から次へと相次いで起り經濟上幾多の暗影を投げ與へて居ります。

殊に今回の東支鐵道を中心とする露支紛争の如き、其後事態益々惡化して露軍の脅威に堪えず遂に滿洲里、ジャライノールの支那軍は敗走し、幸ひ滿洲里は我田中領事の取計で支那兵の武裝解除を行つた爲め掠奪なども無かつた様ですが海拉爾の如き駐屯兵の爲め財寶は掠奪され、寺院學校其他の目星しい建築物は焼き拂はれ、豫て恐れられて居た事が實現され、博克圖等も同じく

掠奪の危に遭ふに至りました。

住民は先を争ふて哈爾濱に避難して參りますが、其の避難列車さへ、支那軍兵に占領さるゝといふ状態であります國を護り民を保護すべき重任に在る軍隊が、却つて暴徒に等しき行動を敢てするに至りました事は何といふ情無い事でありませう。

然るに最近再び露支折衝の機運が熟した様で、近々ハバロフスクで會議が開催される豫定であります。

即ち其の交渉の第一條件である東支鐵道に於けるロシヤの勢力及び沿線に於けるロシヤの各機關が従前通り復活するとせば西部線沿線では。

- 1、滿洲里及齊々哈爾に於ける勞農領事館。
- 2、滿洲里に於けるソウトルグフロツト。
- 3、海拉爾及滿洲里に於けるタリバンク。
- 4、海拉爾の蒙古中央購買組合。

是等の機關が再び復歸して、蒙古貿易を中心として活躍を續ける事となります。



又商店の開業、工業の復活も伴ひ、今日まで戦争を恐れ砲弾の下に戦いて居た滿洲里や支那兵の諒奪に會つた海拉爾其他の市街も蘇生するに至りませう。

更に歐露との交通も開け、浦鹽との連絡輸送も可能となり、小麥其他の穀類輸出禁止も解除されませうから、安達、滿溝、を中心とする特産地方も活況を呈するものと豫想されます。

たゞ相手が相手で、ロシヤと支那の交渉でありますから容易に此の解決は附き難いものと思はれますが、兎に角一路の光明を認め得た譯で、一日も早く平和の日の訪れを待つ次第であります。斯くて年一年と其の面目を新たに急激なる發展を遂げて行く西部線地方の將來や實に洋々たるものであり、今回の事件等は直ちに昔語りとなつて仕舞ふであります。(了)

## 東支鐵道西部沿線事情(終)

## 哈爾濱商品陳列館刊パンフレット目録

號數	書名	備考
一	東三省特別區市内、郷、自治、暫定規則並施行令	(缺)
二	北滿特産と日本特産商の現状	(缺)
三	滿洲里、海拉爾事情	(缺)
四	勞農露西亞の國家製度(上)	(缺)
五	同 (下)	(缺)
六	勞農露國の對外貿易規則集(上)	(缺)
七	北滿洲の工業概観	(缺)
八	勞農露國の對外貿易規則集(下)	(缺)
九	現行勞農商業法規概説	(缺)
一〇	現行勞農企業法規概説	(缺)
一一	西伯利經濟事情(上)	(缺)
一二	同 (下)	(缺)
一三	北滿地方の阿片	(缺)
一四	露國の亞麻と北滿洲の亞麻栽培研究	(缺)
一五	(一)シ、シ、シ、シ、憲法史の梗概 (二)金融上より見たる東鐵附屬地土地建物の權利關係	(缺)
一六	(一)シ、シ、シ、シ、の最高裁判	(缺)
一七	(二)ソウエート機關の概要	(缺)
一八	(一)村落、郷ソウエート機關の概要 (二)勞農當局の説明せる同國の現状	(缺)
一九	(一)同縣州内國貿易部に關する規定 (二)勞農労働組合法規 (三)シ、シ、シ、内、に於て外國人が商業に従事する規定	(缺)
二〇	包装の研究	(缺)
二一	ウクライナ共和國の概況	(缺)

- 二二 北滿地方の阿片(下)
- 二三 北滿に於ける露人及外人關係事業 (缺)
- 二四 露領極東大觀(一) (缺)
- 二五 同 (二)
- 二六 入露の指針
- 號外 臺灣の旅
- 二七 (一) 勞農露國內異種民族共和國の近況  
(二) 勞農露國及極東購買組合成績
- 二八 露領極東大觀(三)
- 二九 哈爾濱に於ける列國の經濟勢力(上)(缺)
- 三〇 全 (下)(缺)
- 三一 露人見たる太平洋問題解決道程(一)(缺)
- 三二 東支沿線指南(上) (缺)
- 三三 勞農露國々立極東及極東農業銀行定款
- 三四 露人の見たる太平洋問題解決の道程(二)
- 三五 露領極東概観
- 三六 露人の見たる太平洋問題解決の道程(三)
- 三七 東支沿線指南(中) (缺)
- 三八 露人の見たる太平洋問題解決の道程(四)
- 三九 沿海縣事情(上編)
- 四〇 一九二五—二六年度シ、シ、シ、ビ、國民經濟豫想
- 四一 大正十四年度勞農露國
- 四二 沿海縣事情(中編)
- 四三 同 (後編)
- 四四 ソヴェト聯邦對外貿易銀行定款
- 四五 極東經濟問題中に現れた東支鐵道(上編)
- 四六 同 (下編)
- 四七 公報より見たるソヴェト聯邦の經濟狀態
- 四八 ソヴェト對外獨占とネーフ
- 四九 計画的經濟と外國貿易獨占
- 五〇 ソヴェト極東の教育
- 五一 ソヴェト國營工業
- 五二 (一) ソヴェト一九二五年度の經濟政策  
(二) ソヴェト工業管理に職業全盟の参加
- 五三 ソヴェト利權政策の新傾向

- 五四 經濟上より見たる勞農露西亞
- 五五 極東地方金融制度
- 五六 ソヴェト聯邦法規概要(上)
- 五七 勞農露西亞の財産權
- 五八 ソヴェト聯邦法規概要(下)
- 五九 ソヴェト聯邦に於ける密輸 (缺)
- 六〇 ソヴェト同に於ける外國貿易(一)(缺)
- 六一 同 (二)(缺)
- 六二 東支沿線指南 下編(乾)
- 六三 同 (坤)
- 六四 ソヴェト聯邦に於ける經濟事情 (缺)
- 六五 同 聯邦と共和國並に共產黨と猶太(缺)
- 六六 ソヴェト文化施設外國人の權利義務私有財産及相續財産
- 六七 西伯利地方極東地方並ヤクーツクフリヤトモゴリ社會主義ソヴェト自治共和國
- 六八 ソヴェト聯邦利權法(上編)
- 六九 同 (下編)
- 七〇 ソヴェト聯邦に於ける輸出貿易の季節性
- 七一 ソヴェト極東地方の諸統計
- 七二 洮昂及四洮鐵道案内
- 七三 一九二六年度蘇國の外國貿易と日蘇貿易
- 七四 支那領烏蘇里沿岸事情
- 七五 ヤクーツク共和國(上卷)
- 七六 ヤクーツク共和國(下卷)
- 七七 最近に於ける蘇聯邦の國民經濟一般
- 七九 極東經濟及び文化的施設に對する各委員の報告概要
- 八〇 極東殖民主史
- 八一 松花江沿岸事情
- 八二 北滿の移民
- 八三 沿海縣の水田
- 八四 ソヴェト共和國土地法典(前編)
- 八五 同 (後編)
- 八六 露支東部國境の密輸事情
- 八七 呼海鐵路並に沿線事情

- 八八 吉拉林及三河地方事情
- 八九 ロシヤ雜観(上篇)
- 九〇 同 (下篇)
- 九一 松花江の航運
- 九二 極東の水田
- 九三 ソウエート聯邦概覽
- 九四 北滿に於ける輸入商品(その一)
- 九五 蘇聯邦極東産業計畫
- 九六 極東沿海地方の諸企業(上卷)
- 九七 極東沿海地方の諸企業(下卷)
- 九八 北滿に於ける輸入商品(その二)
- 九九 現行外國利權及國民經濟に及ぼす影響
- 一〇〇 旅大並に南滿東支鐵道附屬地とその隣接地帯に於ける支那人の經濟的勢力
- 一〇一 蘇聯邦の課税と反幹部派
- 一〇二 東支鐵道沿線牧畜狀態及同鐵道の對策並に沿海縣北滿の米作
- 一〇三 ソウエート聯邦における原料貯藏高

- 一〇四 吉林省中部各縣事情 (上卷)
- 一〇五 同 (下卷)
- 一〇六 蘇聯邦の大資本施設 (上卷)
- 一〇七 同 (下卷)
- 一〇八 昭和三年哈爾濱市況
- 一〇九 傅家甸に於ける工業
- 一一〇 蘇聯邦の國營保險
- 一一一 北滿に於ける輸入商品(その三)
- 一一二 哈爾濱に於る商工組合其他規定集(上)
- 一一三 蘇聯の失業と其對策
- 一一四 哈爾濱に於る商工組合其他規定集(下)
- 一一五 松花江の航運 附黑龍江航運の使命
- 一一六 極東露領の植民
- 一一七 東支鐵道南部沿線事情
- 一一八 極東露領視察記(一)
- 一一九 同 (二)
- 一二〇 極東露領移民用地の概要
- 一二一 最近の浦鹽斯德港

- 一一二 東支鐵道西部沿線事情
- 一一三 烏蘇里地方に於ける朝鮮人
- 一一四 東支鐵道問題の真相と其經過(上)
- 一二五 同 (下)

終

